

ForceMaster

300

300DH

この度はシマノ製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本製品の機能を十分に引き出し、末永くご愛用いただくためにも、使用前にこの取扱説明書をお読みください。

なお、取扱説明書の内容は予告なく更新させていただくことがあります。最新版はWEB版をご参照ください。

安全上のご注意	2
特長	8
タッチドライブ	12
タッチドライブ一覧	13
タッチドライブスピードロックONかつフッキングモードOFFの場合(中間速設定1段階の場合)	14
タッチドライブスピードロックONかつフッキングモードONの場合(中間速設定1段階の場合)	15
タッチドライブスピードロックONかつフッキングモードOFFの場合(中間速設定2段階の場合)	16
タッチドライブスピードロックONかつフッキングモードONの場合(中間速設定2段階の場合)	17
タッチドライブスピードロックON(中間速設定OFFの場合)	18
タッチドライブスピードロックOFF(中間速設定1段階の場合)	19
タッチドライブスピードロックOFF(中間速設定2段階の場合)	20
タッチドライブスピードロックOFF(中間速設定OFFの場合)	21
タッチドライブスピードロックON/OFFの切替え	22
タッチドライブスピードロックの設定	23
タッチドライブの中間速設定及びフッキングモード設定(メニュー画面へ移行なしの場合)	24
探見丸システムについて	25
探見丸スクリーン	26
ACCU-FISH®(アキュフィッシュ)機能	27
電動リールと探見丸親機のアクセス操作手順	28
探見丸設定の機能一覧	30
電動リールと探見丸子機のアクセス操作手順	32
デジタルカウンターの各部の名称・メニュー画面の操作	34
メニューで設定の変更が可能な機能一覧	36
各部の名称	40
フォールレバー操作	41
フォールレバー設定方法	42
電源とケーブルについて	45
学習方法	46
学習モード一覧	47

[下巻きをしない]かつ[これから巻き取るラインの長さが正確に分かる場合]PEライン学習(E1)	48
[下巻きをする]かつ[これから巻き取るラインの長さが正確に分かる場合]下巻き学習(E2)	50
[下巻きを完了している場合(ラインを巻き替える場合)]かつ[これから巻き取るラインの長さが正確に分かる場合]下巻き学習(E2)	54
[下巻きをしない]かつ[これから巻き取るラインの長さが正確に分からない場合]PEライン学習(L1)	58
[下巻きをする]かつ[これから巻き取るラインの長さが正確に分からない場合]下巻き学習(L2)	60
[下巻きを完了している場合(ラインを巻き替える場合)]かつ[これから巻き取るラインの長さが正確に分からない場合]下巻き学習(L2)	64
[何]出学習をする場合]かつ[すでに糸巻きが完了している場合]引き出し学習(P1)	68
色々なテクニック	72
0(ゼロ)セットの設定	73
高切れの補正	75
S A-RB	76
船べり自動停止	77
アラーム(船べり)	79
糸巻学習補正	80
棚または底の水深をメモリーする方法	83
棚アラーム	84
巻上距離アラーム	85
巻上距離アラームの実約編	86
2通りの棚の取り方・上からモードと底からモード	87
上からモードの実約編	88
底からモードの実約編	89
モーター&クラッチ運動機能	90
探見丸システム接続時の機能一覧	92
お取り扱い上の注意	94
仕様	100
故障かな?と思われたときは	102
製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内	104
サービスネット	106

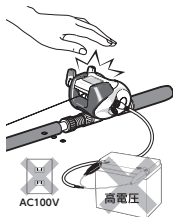
ご使用前に必ずお読みください。

⚠ 警告



高温注意

- バッテリー、船電源の所定電圧（DC12～16.8V）以外を使用しないでください。所定の電圧以外を使用すると、電動リールが発熱し、カウンター部の電子部品の破損や、手を火傷する恐れがあります。
- 家庭用交流電源につながらないでください。回路が破損し発火発煙の恐れがあります。
- 電源コネクターやワニ口クリップに異常な発熱があった場合は、使用を中止してください。



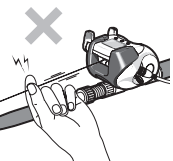
警告

- リチウムイオンバッテリーを使用する際は、シマノのバッテリーをご使用ください。他社メーカーのバッテリーを使用された場合、リールおよびバッテリーが破損する場合があります。



巻き込み注意

- 糸が勢いよく出ている時、又は、糸を巻いている時に糸を掴んだりしないでください。糸で指を切ったり切断する恐れがあります。



⚠ 警告



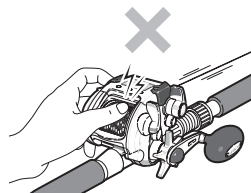
警告

- 電動リールのブレーカーが何度も作動するような場合は、対象魚/シカケの負荷に対して電動リールの仕様が適合していないと考えられます。そのままご使用になれますと、モーターやカウンターユニットが異常な発熱を起こし、焼損する場合があります。この場合は電動リールの番手を上げてご使用ください。



回転物注意

- 指を本体とスプール等の回転部に差し込まないでください。指を怪我したり、切断する恐れがあります。



警告

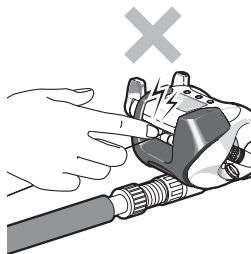
- 船電源、鉛バッテリー等をご使用になる場合は低電圧でご使用にならないようお願いします。デジタルカウンター表示部にバッテリーマーク（）または  が点灯、点滅している状態で、高負荷巻き上げ（大電流が流れる）を行いますと、デジタルカウンター内部の電子部品が破損し、レンズが飛び出る場合があります。

警告



**指をはさまれない
よう注意**

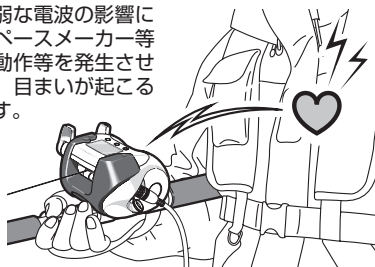
- 糸をリードするレベルワインドの所に指を近づけて、釣りをしないでください。指をはさまれて、怪我をする恐れがあります。指をはさんだ場合は電源をOFFにし、電動リールを解体してください。
- ハンドルとボディの間に手をはさむと、けがをする恐れがあります。



- 電動リールの微弱な電波の影響により、補聴器・ペースメーカー等の医療機器に誤動作等を発生させて使用者に動悸、目まいが起こる場合がございます。



警告

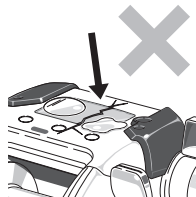


警告



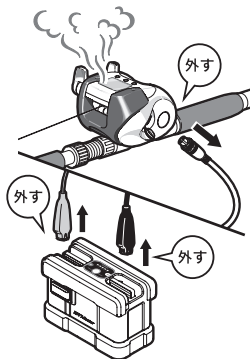
警告

- カウンターレンズ内側に水滴や曇りが見られた場合は直ぐにケーブルを外してください。そのまま使い続けると、誤動作し穂先を折ったり、破片で怪我をする恐れがあります。
- 電動カウンターのレンズやケースにヒビ割れ、クラックがある場合は使用を中止してください。水が内部に侵入するとショートして回路が破損し、モーター制御が出来なく恐れがあります。



警告

- 電動リールやカウンター表示部から焦げ付いた匂いや煙、異常な発熱が出た場合は直ぐに使用を中止してください。そのまま使い続けると発火発煙の恐れがあります。
- 巻き上げが止まらない場合は直ちに電源コネクターを外すか、バッテリーからワニ口クリップを外してください。

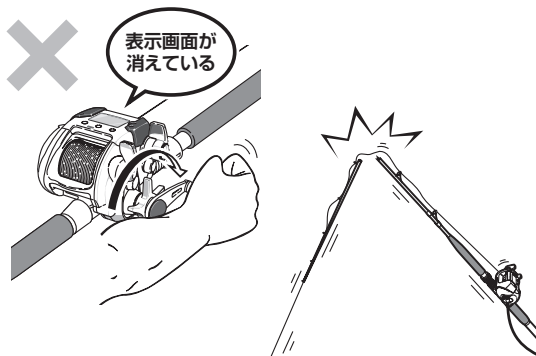


⚠ 注意



注意

- 電動リールをご使用中、表示画面が消えた時にリールのハンドルを使用し巻き上げると、正常にラインのカウントが出来ません。（※ラインとカウント表示に誤差が発生します。）そして表示画面が復帰後、電動リールのモーターで巻き上げると船べり停止が出来ず、仕掛け巻き込みの原因となります。場合によっては穂先を破損する可能性がありますので、表示画面が消えた場合はその原因を取り除き、表示画面が復帰した後でライン回収を行ってください。



⚠ 注意



注意

- メッキや塗装等の表面処理が剥がれたり、強い衝撃等により素材の表面が鋭利になった場合には、その部分に触れないでください。けがをする恐れがあります。



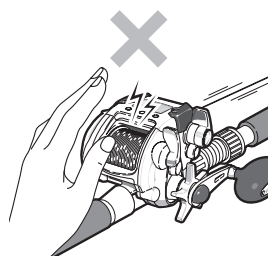
注意

- バッテリーマーク（ または ）が点灯、点滅している場合はバッテリー電圧が低下しており、電動リールの性能を十分に発揮できないだけでなく、モーター、カウンターユニットに負荷が加わり故障の原因となる場合がありますので、使用を中止し十分に充電したバッテリーに交換してご使用ください。



回転物注意

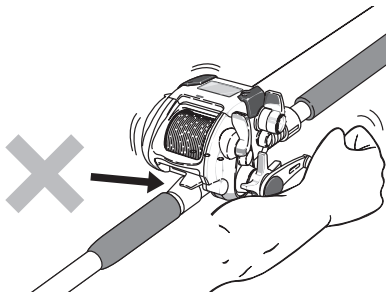
- 回転しているスプールに触れないでください。けがをする恐れがあります。



⚠ 注意

⚠ 注意

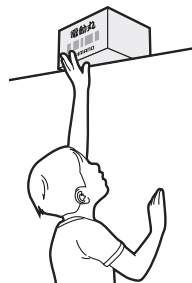
- 電動リールはリールシートにしっかり固定してご使用ください。ガタ付きがある場合や固定出来ない場合は、ご使用を控えてください。釣行中に外れたりすると、怪我を負う恐れがあります。



⚠ 注意

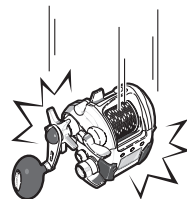
⚠ 注意

- 幼児の手の届く所では、保管、使用しないでください。



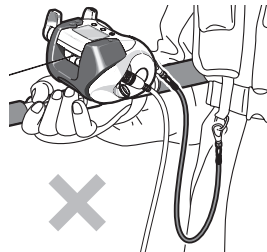
⚠ 注意

- 落下等の衝撃によりカウンターが破損し、誤動作する恐れがあります。強い衝撃が加わらないようにしてください。



⚠ 注意

- ケーブル等を身体に巻きつけたりしないでください。魚のヒキによっては海に落ちる可能性があります。

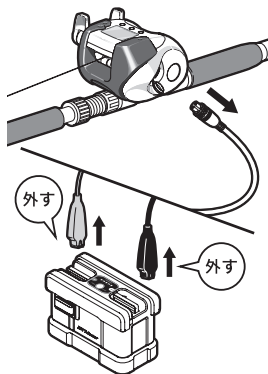


⚠ 注意



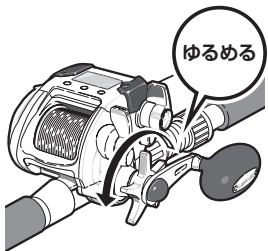
注意

- 釣行後に電動リールをメンテナンスをする場合は、必ずケーブルをバッテリーから外して行ってください。急にスプールが回りだしたりすると、怪我や電動リールの破損の恐れがあります。



注意

- 電源をつなぐ前に、必ずドラグを十分にゆるめてから接続してください。故障時にモーターが回り放しになり、仕掛けを巻き込み、竿を破損する恐れがあります。

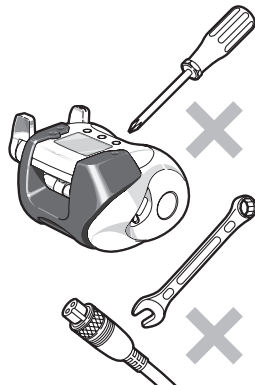


⚠ 注意



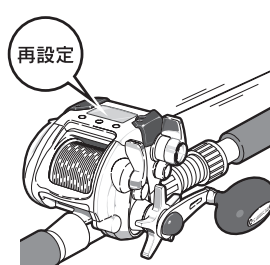
分解禁止

- 本体を改造したりしないでください。電動リールの性能を損ない、安全機能が働かなくなり怪我をしたりする恐れがあります。
- ケーブルの改造はしないでください。電動リールの性能を損なったり、発熱や発火する恐れがあります。



注意

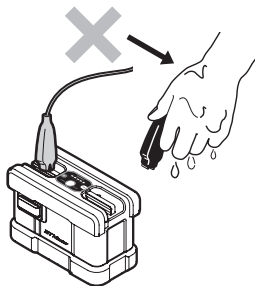
- 船べり停止位置は巻き上げ張力等によってズれる事があります。停止位置がズれてきた場合は「0セット」して補正してください。停止位置がズれると竿の穂先を折ったりする恐れがあります。



⚠ 注意

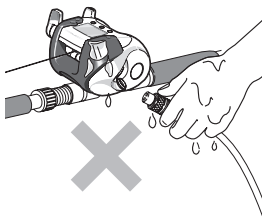
⚠ 注意

- 濡れた手でケーブルのワニ口クリップの金属部やバッテリー、船電源の端子を触らないでください。感電する恐れがあります。



⚠ 注意

- ケーブルを電動リールに接続する時は、端子部が濡れていない事を確認して接続してください。濡れていると海水によりショートと発火、発煙し火傷する恐れがあります。



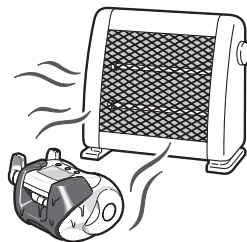
注意

- 根掛かりした時は竿をあおらず、糸をロッドキーパーや、しっかりとした船べりに巻きつけ、船で糸を切るようにしてください。

⚠ 注意

⚠ 注意

- メンテナンス後にドライヤーや発熱器具を使っている乾燥は止めてください。樹脂が変形したりする恐れがあります。



モーターの誤作動についてのご注意

- 落下等の強い衝撃により表示部に破損やクラックが起こり内部に海水が浸入した場合、モーター制御が出来なくなる事があります。
突然、糸を巻き上げる等の誤作動により怪我をする可能性がありますので、表示部のクラックや破損を発見した場合は、ケーブルを抜いて即座に使用を中止し、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。またお近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄の営業所へお問合せください。
- 本電動リールの使用電源保証範囲はDC12~16.8Vまでです。これより大きな電源や家庭用交流電源等を使用した場合、表示部の電子回路が破損しモーター制御が出来なくなります。
また、発煙発火の可能性もありますので、必ず使用電源をご確認の上、使用してください。



巻上げ操作を親指1本で瞬時に可能にした
シーソー型感圧スイッチ…

タッチドライブスピードロック P12~24, 37~38 参照
押圧によりスピード調整が瞬時に可能。

タッチドライブスピードロックとは、ワンタッチで設定したスピード（中間速設定）で瞬時に巻き上げることができ、まるで車のアクセルのように、タッチドライブを押すと加速し指を離すと減速します。ターゲットの動きに追従でき自由自在なスピードコントロールを可能にしました。

※タッチドライブスピードロックは、ON/OFFの切替可能です。



喰い上げなど、よりスピーディなフッキングが可能に…

フッキングモード …… P12~24, 37~38 参照
タッチドライブの最初のワンタッチで中間速よりも速い巻き上げが可能になり、タッチドライブを離すと減速し中間速になります。喰い上げなど、瞬間的に速い巻き上げが必要な魚種にマッチし、瞬時にハイスピードで巻き上げることで、よりスピーディなフッキングが可能です。

※フッキングモードは、ON/OFFの切替可能です。



等速でさそう釣りが効果的に釣果UP…

中間速2段階設定 …… P12~24, 37~38 参照
中間速設定とは、タッチドライブ（増速側）を1回強押しすると、設定したスピード（中間速）になる設定です。この中間速を2つ設けたのが中間速2段階設定になります。

中間速2段階設定は、特に等速でさそう釣りにおいて、効率的な釣りが可能になります。中間速のひとつは、等速でさそう速度（さそい速）を設定します。もうひとつの中間速は、魚を掛けた時の巻き上げ速度（ファイト速）を設定します。たとえば仕掛け着底後、タッチドライブ1回目の操作（強押し）でさそい速の巻き上げを開始。アタリがあればタッチドライブ2回目の操作（強押し）でファイト速へ増速します。

※中間速設定は、1段階/2段階/OFFの選択可能です。



カラー魚探映像になり、鮮明に水中の情報がわかる…

探見丸スクリーン …… P26~31, 36 参照

カラー液晶を採用し、魚探画面を電動リールに表示します。表示内容は、水深を含む[5つの基本情報]を表示し、釣りをしながらにして海中の情報を知ることができます。

■現在の海底水深 ■海底形状 ■魚群の反応
■魚のサイズ ■30秒間を示すバー表示

※探見丸スクリーンは、探見丸親機搭載船で利用できます。

※魚のサイズ表示[ACCU-FISH®（アキュフィッシュ）機能]は、ACCU-FISH®（アキュフィッシュ）対応の親機搭載船で利用できます。



リアルタイムで海底の水深がわかる…

探見丸スケール …… P30 参照

海底の水深を表示します。また、フィッシュマークが出るとうる水深を表示し、アラームで通知します。

※海底水深表示機能は探見丸親機搭載船に限りです。また、魚群水深表示機能は、ACCU-FISH®（アキュフィッシュ）対応の探見丸親機搭載船に限りです。



フォールスピードを容易かつ正確に制御可能に…

フォールレバー …… P40~44, 72 参照

スローフォールで誘う魚種（タチウオ、コマセマダイ、タイラバ、落とし込みなど）に、より戦略的な釣りが可能に。内部にワンウェイローラーベアリングを搭載しフォールテンション（ブレーキ）をかけた状態でもハンドル回転やモーターの巻き上げに抵抗が生じません。



フォールスピードを再現させ、釣果UPに…

フォールスピードの目安を表示 …… P34 参照



頻繁な棚取り操作も親指1本で自由自在…

スピードクラッチ …… P40 参照
クラッチレバーを押す毎に、クラッチのON/OFF切替を可能にしました。ロッドとリールを握ったまま、スプールから指を離さず(バッククラッシュを防ぐ)に、素早くクラッチのON/OFF切替が可能になり、狙い棚をはずさないメリットがあります。



スローな巻上げをより細かく調整することができる…

超微変速制御 …… P39 参照



糸巻量に影響せず、電動で等速巻きを実現…

電動等速巻き制御
※超微変速制御がONの時のみ表示します。



ハンドル巻上げ時のスピードを表示…

ハンドルスピード表示 …… P34 参照
電動の31階段に設定されている巻上げスピードとリンクしています。
※超微変速制御がONの時のみ表示します。



モーター&クラッチ連動機能 …… P36, 90~91 参照
モーターで電動巻上げをしている時にクラッチをOFFにすると、自動でモーターもOFFになる機能。フォール中のモーター音がなくなり、繊細な操作に集中できます。また、クラッチをONにすると自動で電動巻上げを開始します。



さそう棚の幅(距離)が決まっている時、カウンター表示を確認せず、さそいが可能…

巻上距離アラーム …… P36, 85~86 参照
巻上距離アラームとは、「クラッチON」もしくは「巻き始めた」ところから、設定した距離を巻き上げるとアラーム音でお知らせする機能です。



ドラッグが滑ると爽快地に響く…

e-エキサイティングドラッグサウンド …… P39 参照
エキサイティングドラッグサウンドが電子音になりました。アングラーを白熱させる音が鳴り響きます。



コマセ振りや仕掛け回収のタイミングを計る目安に…

棚タイマー …… P34 参照
仕掛けが目標の棚に到達してからの経過時間を表示します。



カウンターと道糸のズレを釣り場で補正…

糸巻学習補正 …… P39, 80~82 参照



錆、塩害に強いボールベアリング…

シールドタイプS A-RB内蔵 …… P76 参照
従来のA-RB(アンチラストベアリング)の側面に防錆素材でシールドし、塩分の浸入を減少させた S A-RBを適材適所に配置したことにより更なるスプールフリーが実現!A-RB処理による防錆性はもちろん、ベアリング内部に浸入した塩分の結晶化による「塩害」をも減少させています。



巻き上げフィーリング抜群の…
スーパーストップーII
 アソビがないのでシャクリに威力を発揮します。



このクラストップレベルの…
軽量コンパクト化を実現



さらに磨きのかかった…
ハイスピード&ハイパワーを装備



より正確に何回でも狙った水深にシカケを落とす…
0(ゼロ)セット …… P34, 73～74 参照
 シカケが水面にあるときを0メートルとして設定できますから、狙った水深に、より正確にシカケを投入できます。



竿を立てたときにシカケが手元に戻ってくる…
船べり自動停止 …… P77～79 参照
 船べり停止位置が自動的に設定されますから、船べり停止後、竿を立てただけでシカケが手元に戻ります。



高切れをワンタッチで修正する…
高切れ補正 …… P34, 75 参照
 高切れした場合は、再度シカケを結びシカケを水面に合わせて0セットボタンを押してください。カウンターが修正されます。



メモリーした水深をメモ欄に表示…
メモ欄 …… P34, 83 参照
 メモまたは底の水深をメモリーして表示しておけます。底からモード時はメモ位置からの差をメモ欄に表示します。



メモ水深の表示方法を選択できる…
「上からモード」「底からモード」切り替え
 …… P34, 39, 83, 87～89 参照
 釣場、釣り方、対象魚など場合にに応じて底からの水深を確認したい場合、メモ水深の表示方法を切り替えられます。
 上からモード時はメモ水深を表示していますが、底からモードを選択するとメモ位置からの差を表示します。



釣行前に確認でき、高切れ時などに便利な…
ライン残量表示 …… P39, 74～75, 81 参照
 現在、リールに巻いているラインの距離を確認することができます。



探見丸親機及び子機と無線通信OK!…
無線通信モジュール(ZigBee)内蔵 P28～33 参照
 デジタルカウンター内部に無線通信モジュールが内蔵されていますので、通信ケーブルを必要とせず、探見丸親機及び子機(2004年探見丸(白黒液晶)を除く)と無線通信できます。
 ※リール固有のIDナンバーを所有

探見丸システムを組み合わせれば、さらに便利に!

船べりで魚探が見える!

探見丸システム対応 P25 参照

探見丸子機と組み合わせることで双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。

本文の説明中に次のようなマークが
出てきた場合は…

指し示された
ボタンを **3秒未満**
チョイ押しして
ください。



ワンタッチ

指し示された
ボタンを **3秒以上**
長押しして
ください。



3秒以上

指し示された
ボタンを **6秒以上**
長押しして
ください。



6秒以上

ご注意：
本文の説明中に出てくる
カウンター内の数値・
設定などは、例として
表示している場合が
あります。
全く同じ表示になる
わけではありません。

本製品には、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、
工事設計認証を受けた無線設備を内蔵しています。



Ⓡ 217-220682

タッチドライブ

■ 基本操作説明

シーソー型感圧スイッチのタッチドライブは、巻き上げ操作を親指1本で押圧によりスピード調整を瞬時に可能にしました。

- 31段階のスピード調整が可能
- 1回(短押し)押すごとに、1速ずつ変速が可能です。
- 増速と減速のスイッチの切替が可能です。

■ 3つの新機能の説明

● タッチドライブスピードロック

ワンタッチで設定したスピード(中間速設定)で瞬時に巻き上げることができ、まるで車のアクセルのように、タッチドライブを押すと加速し指を離すと減速します。ターゲットの動きに追従でき自由自在なスピードコントロールを可能にしました。

※タッチドライブスピードロックは、ON/OFFの切替可能です。

● フッキングモード

タッチドライブの最初のワンタッチで中間速よりも速い巻き上げが可能になり、タッチドライブを離すと減速し中間速になります。

喰い上げなど、瞬間的に速い巻き上げが必要な魚種にマッチし、瞬時にハイスピードで巻き上げることで、よりスピーディなフッキングが可能です。

※フッキングモードは、ON/OFFの切替可能です。

● 中間速2段階設定

中間速設定とは、タッチドライブ(増速側)を1回強押しすると、設定したスピード(中間速)になる設定です。

この中間速を2つ設けたのが中間速2段階設定になります。

中間速2段階設定は、特に等速でさそう釣りにおいて、効率的な釣りが可能になります。

中間速のひとつは、等速でさそう速度(さそい速)を設定します。

もうひとつの中間速は、魚を掛けた時の巻き上げ速度(ファイト速)を設定します。

たとえば仕掛け着底後、タッチドライブ1回目の操作(強押し)でさそい速の巻き上げを開始。

アタリがあればタッチドライブ2回目の操作(強押し)でファイト速へ増速します。

※中間速設定は、1段階/2段階/OFFの選択可能です。

タッチドライブ一覧

表を参照に、お好みの設定でご使用ください。

■タッチドライブスピードロックのON/OFFの選択が可能です。

■中間速設定は、1段階/2段階/OFFの選択が可能です。

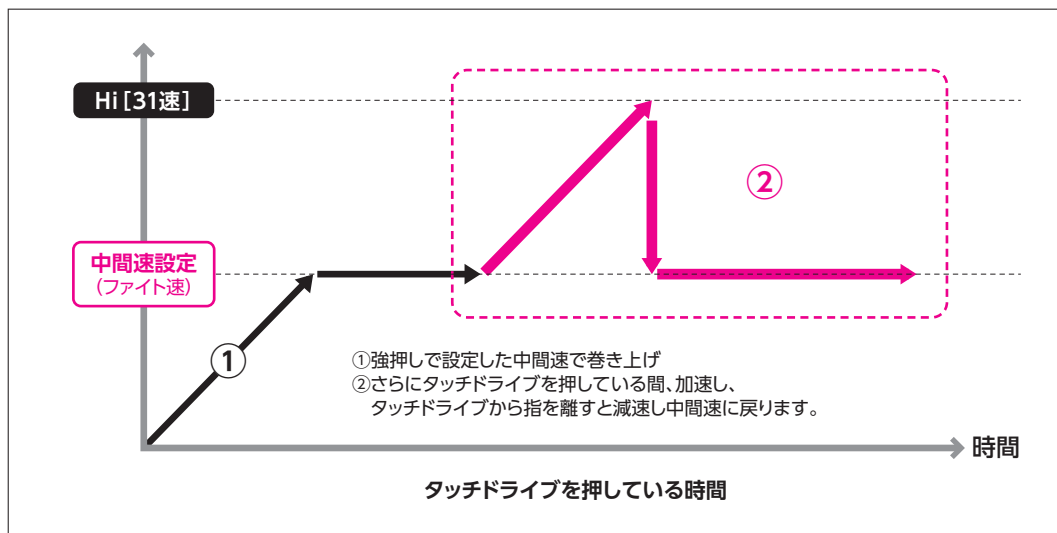
	タッチドライブスピードロック ON バラさず釣果UP		タッチドライブスピードロック OFF 高速巻きを維持したい時 (仕掛け回収時など) ※フッキングモードON/OFFの設定に関わらず 動作は同じ
	フッキングモード OFF	フッキングモード ON	
中間速設定 1段階 多くの魚種にマッチ	P14へ(初期設定)	P15へ	P19へ
中間速設定 2段階 等速でさそう釣りで釣果UP	P16へ	P17へ	P20へ
中間速設定 OFF 高速巻きを多用する釣りに	P18へ		P21へ

タッチドライブスピードロックONかつフッキングモードOFFの場合 (中間速設定1段階の場合)

多くの魚種にマッチし、バラさず釣果UP

【動作説明】

ワンタッチで設定したスピード(中間速設定)で瞬時に巻き上げることができ、まるで車のアクセルのように、タッチドライブを押すと加速し指を離すと減速します。ターゲットの動きに追従でき自由自在なスピードコントロールを可能にしました。



※ 中間速設定(ファイト速)は、スピード[1]～[30]または[OFF]の選択が可能です。

※ 中間速設定(ファイト速)が[OFF]の場合は、タッチドライブ(増速側)を1回押し続けるとスピードがMAXスピードの[Hi]まで上がります。

※ 中間速は増速側のみ有効です。タッチドライブ(減速側)を押し続けた場合、設定した速度(中間速)にならず、モーターはストップします。

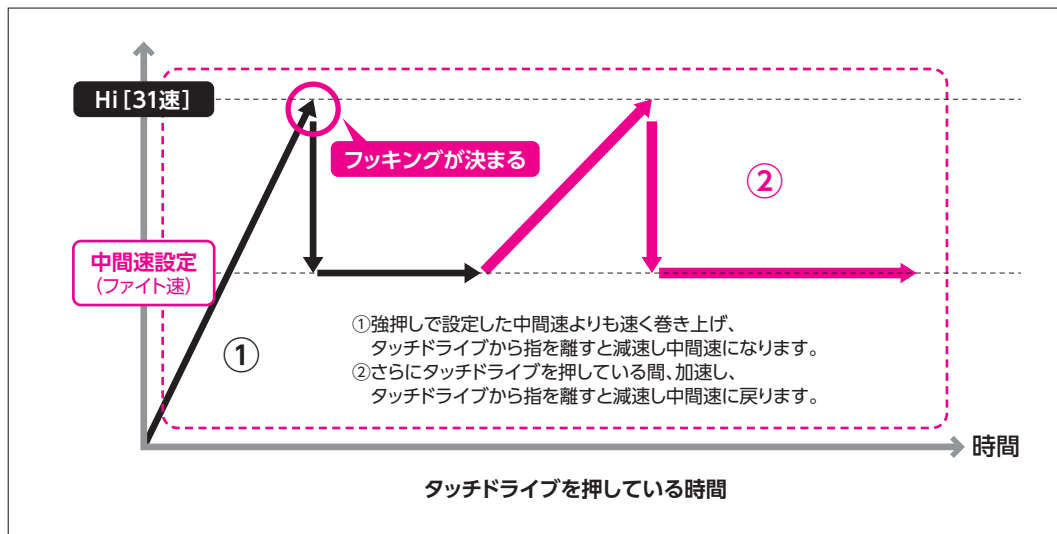
タッチドライブスピードロックONかつフッキングモードONの場合 (中間速設定1段階の場合)

多くの魚種にマッチし、バラさず釣果UP (特に喰い上げなどにスピーディにフッキングが可能)

【動作説明】

タッチドライブの最初のワンタッチで中間速よりも速い巻き上げが可能になり、タッチドライブを離すと減速し設定したスピード(中間速設定)になります。

喰い上げなど、瞬間的に速い巻き上げが必要な魚種にマッチし、瞬時にハイスピードで巻き上げることで、よりスピーディなフッキングが可能です。



※ 中間速設定 (ファイト速) は、スピード[1]～[30]または[OFF]の選択が可能です。

※ 中間速設定 (ファイト速) が[OFF]の場合は、タッチドライブ (増速側) を1回押し続けるとスピードがMAXスピードの[Hi]まで上がります。

※ 中間速は増速側のみ有効です。タッチドライブ (減速側) を押し続けた場合、設定した速度 (中間速) にならず、モーターはストップします。

タッチドライブスピードロックONかつフッキングモードOFFの場合 (中間速設定2段階の場合)

等速でさそい釣りで釣果UP、バラさず釣果UP

中間速を2つ設けたのが中間速2段階設定になります。

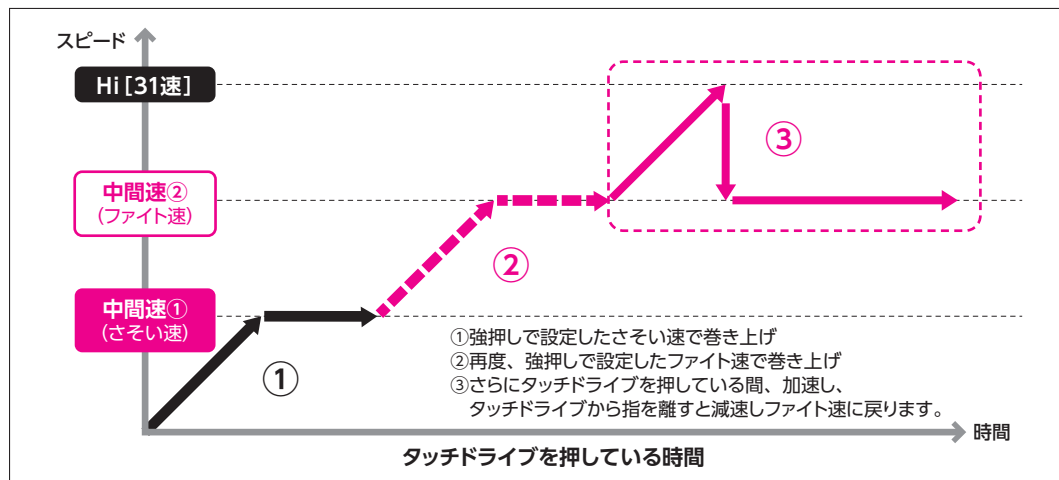
【動作説明】

特に等速でさそい釣りにおいて、効率的な釣りが可能になります。

たとえば仕掛け着底後、タッチドライブ1回目の操作(強押し)でさそい速の巻き上げを開始。

アタリがあればタッチドライブ2回目の操作(強押し)でファイト速へ増速します。

※中間速のひとつは、等速でさそい速度(さそい速)を設定し、もうひとつの中間速は、魚を掛けた時の巻き上げ速度(ファイト速)を設定します。



※中間速設定(さそい速/ファイト速)は、スピード [1] ~ [30] または [OFF] の選択が可能です。

※中間速設定(さそい速/ファイト速)が共に [OFF] の場合は、タッチドライブ(増速側)を1回押し続けるとスピードがMAXスピードの [Hi] まで上がります。

※中間速は増速側のみ有効です。タッチドライブ(減速側)を押し続けた場合、設定した速度(中間速)にならず、モーターはストップします。

タッチドライブスピードロックONかつフッキングモードONの場合 (中間速設定2段階の場合)

等速でさそう釣りで釣果UP、バラさず釣果UP (特に喰い上げなどにスピーディにフッキングが可能)

中間速を2つ設けたのが中間速2段階設定になります。

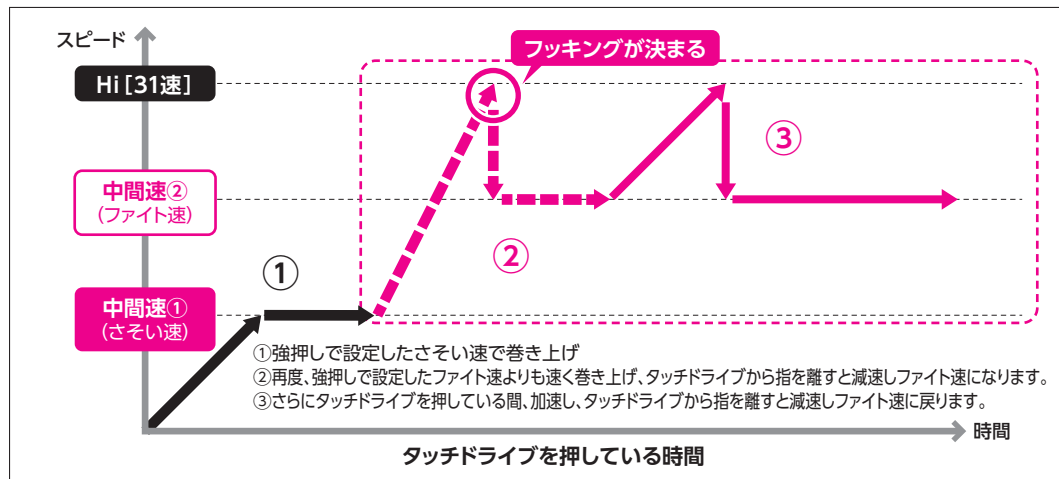
【動作説明】

特に等速でさそう釣りにおいて、効率的な釣りが可能になります。

たとえば仕掛けて着底後、タッチドライブ1回目の操作(強押し)でさそい速の巻き上げを開始。

アタリ(特に喰い上げ)があればタッチドライブ2回目の操作(強押し)でファイト速よりも速い巻き上げが可能になり、タッチドライブを離すと減速しファイト速になります。

※中間速のひとつは、等速でさそう速度(さそい速)を設定し、もうひとつの中間速は、魚を掛けた時の巻き上げ速度(ファイト速)を設定します。



※中間速設定 (さそい速/ファイト速) は、スピード [1] ~ [30] または [OFF] の選択が可能です。

※中間速設定 (さそい速/ファイト速) が共に [OFF] の場合は、タッチドライブ (増速側) を1回押し続けるとスピードがMAXスピードの [Hi] まで上がります。

※中間速は増速側のみ有効です。タッチドライブ (減速側) を押し続けた場合、設定した速度 (中間速) にならず、モーターはストップします。

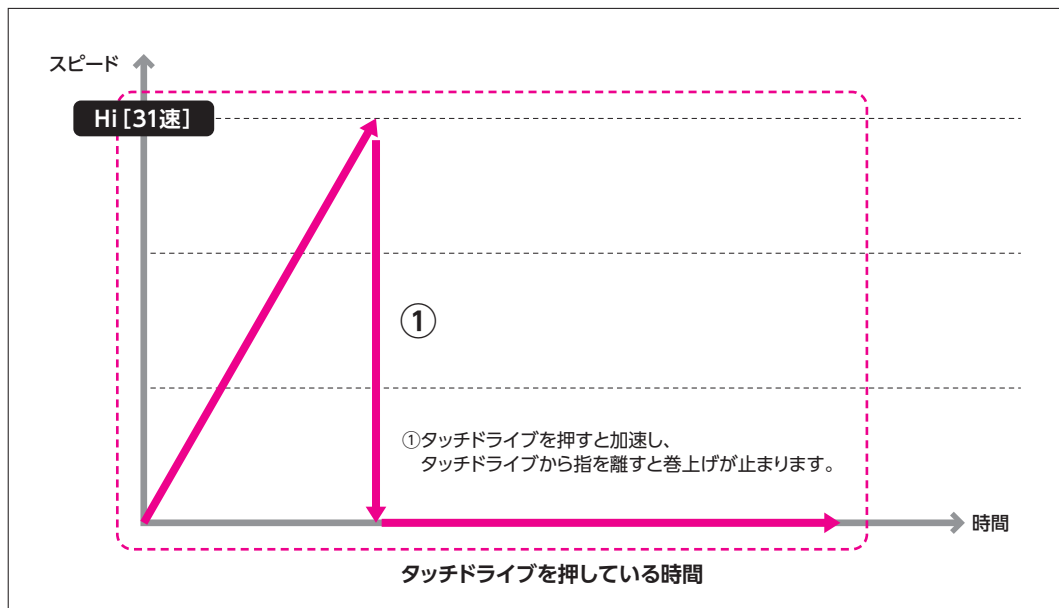
タッチドライブスピードロックON(中間速設定OFFの場合)

高速巻きを多用する釣りに、バラさず釣果UP

※フッキングモードON/OFFの設定に関わらず動作は同じです。

【動作説明】

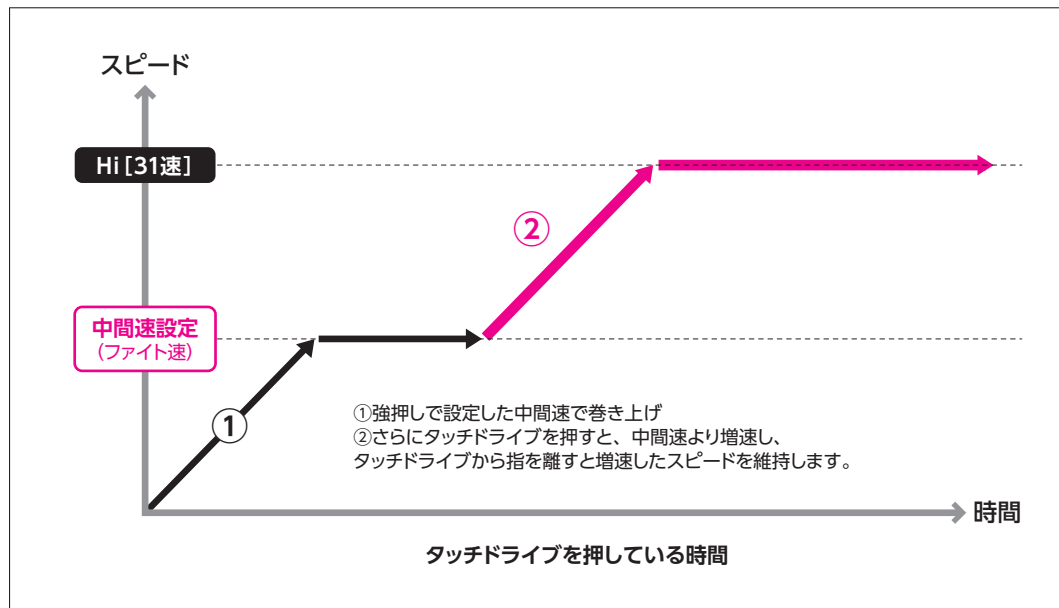
押圧によりスピード調整が可能で、タッチドライブを押している間、電動で巻き上げることができます。



タッチドライブスピードロックOFF (中間速設定1段階の場合)

多くの魚種にマッチし、高速巻きを維持したい時 (仕掛け回収時など)

※フッキングモードON/OFFの設定に関わらず動作は同じです。



※中間速設定 (ファイト速) は、スピード [1] ~ [30] または [OFF] の選択が可能です。

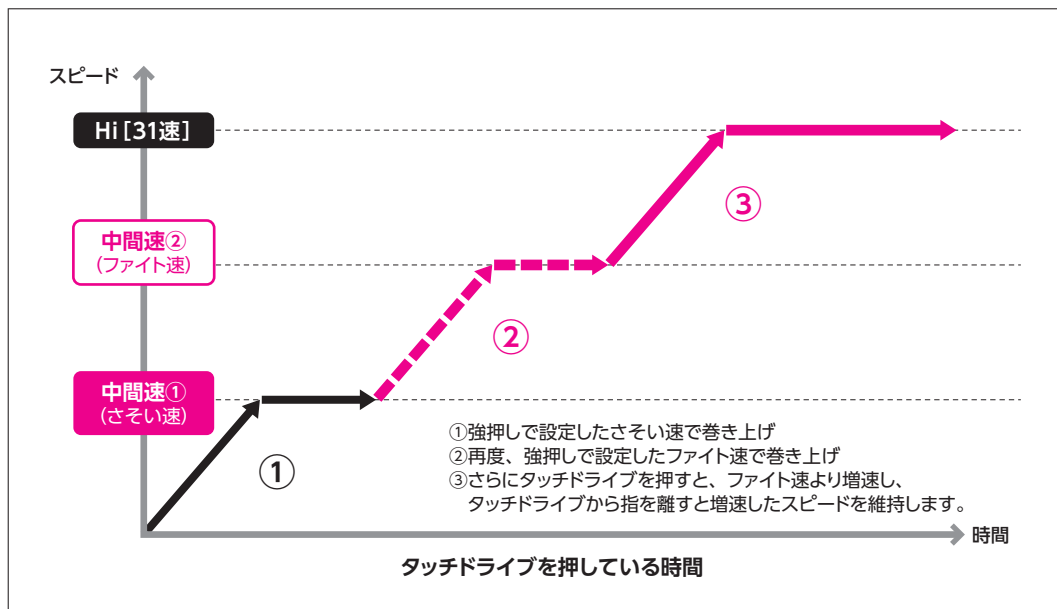
※中間速設定 (ファイト速) が [OFF] の場合は、タッチドライブ (増速側) を1回押し続けるとスピードがMAXスピードの [Hi] まで上がります。

※中間速は増速側のみ有効です。タッチドライブ (減速側) を押し続けた場合、設定した速度 (中間速) にならず、モーターはストップします。

タッチドライブスピードロックOFF (中間速設定2段階の場合)

等速でさそう釣りで釣果UP、高速巻きを維持したい時 (仕掛け回収時など)

※フッキングモードON/OFFの設定に関わらず動作は同じです。



※中間速設定 (さそい速/ファイト速) は、スピード [1] ~ [30] または [OFF] の選択が可能です。

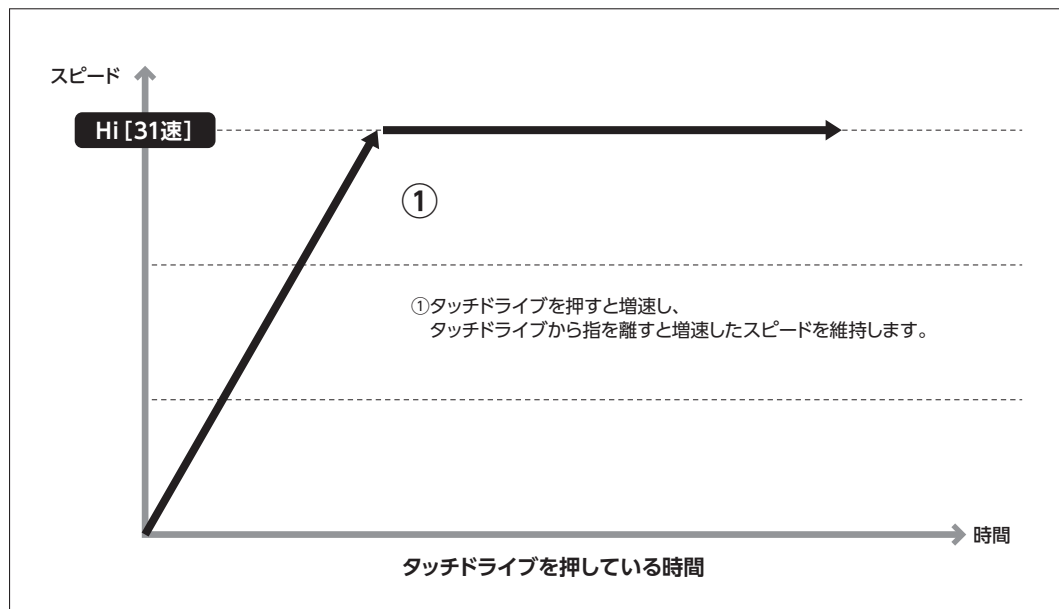
※中間速設定 (さそい速/ファイト速) が共に [OFF] の場合は、タッチドライブ (増速側) を1回押し続けるとスピードがMAXスピードの [Hi] まで上がります。

※中間速は増速側のみ有効です。タッチドライブ (減速側) を押し続けた場合、設定した速度 (中間速) にならず、モーターはストップします。

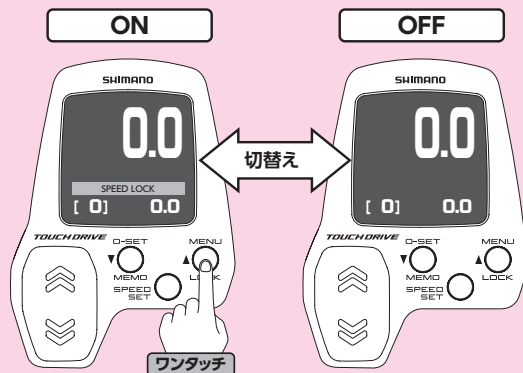
タッチドライブスピードロックOFF (中間速設定OFFの場合)

高速巻きを多用する釣りに、高速巻きを維持したい時 (仕掛け回収時など)

※フッキングモードON/OFFの設定に関わらず動作は同じです。



タッチドライブスピードロック ON/OFFの切替え

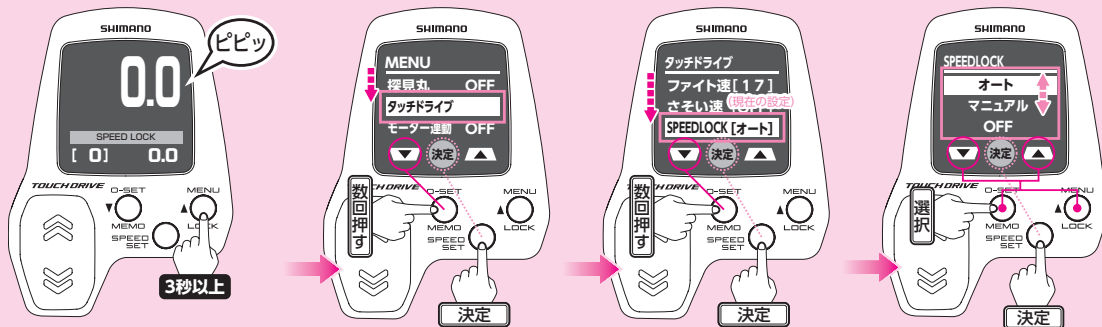


- 1** 水深画面で LOCK(ロック) ボタンを押すごとに
" SPEED LOCK " が点灯 … ON
" SPEED LOCK " が消灯 … OFF
が切り替わります。

モーターが停止または作動している時、
いずれも切替え可能です。

※ただし、タッチドライブスピードロックの設定がオート(初期設定)になっている場合、タッチドライブスピードロックがOFFの状態で船縁停止位置(表示6.0m以下)でクラッチをOFFにすると、自動でタッチドライブスピードロックがONになります。タッチドライブスピードロックの設定方法の説明は…P37～38へ

タッチドライブスピードロックの設定



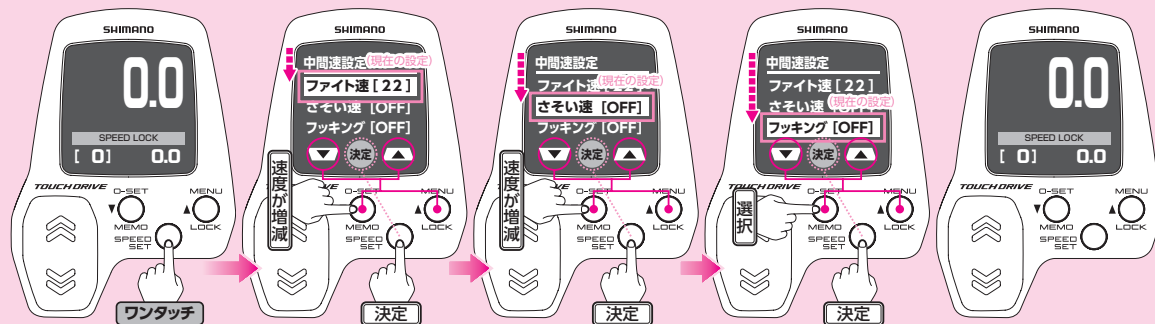
- 1** 出荷時はタッチドライブスピードロック "オート" で起動します。
水深画面で MENU(メニュー) ボタン を 3 秒以上押すとメニュー画面が表示されます。
注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。

- 2** ▼ ボタンを数回押して「タッチドライブ」を選択します。
(図の設定は例です。)
決定ボタンを押すと「タッチドライブ」のメニューが表示されます。
(メニュー画面の操作について、詳しくは P36 ~ 39 をご参照ください。)

- 3** ▼ ボタンを数回押して「SPEEDLOCK」を選択します。
(図の設定は例です。)
決定ボタンを押すと「SPEEDLOCK」のメニューが表示されます。
▼▲ ボタン で「オート」または「マニュアル」または「OFF」を選択し、決定ボタンを押せば設定完了です。
(機能の詳細説明は…P36へ)

タッチドライブの中間速設定及びフッキングモード設定 (メニュー画面へ移行なしの場合)

メニュー画面に移行せず、中間速を変更する方法です。



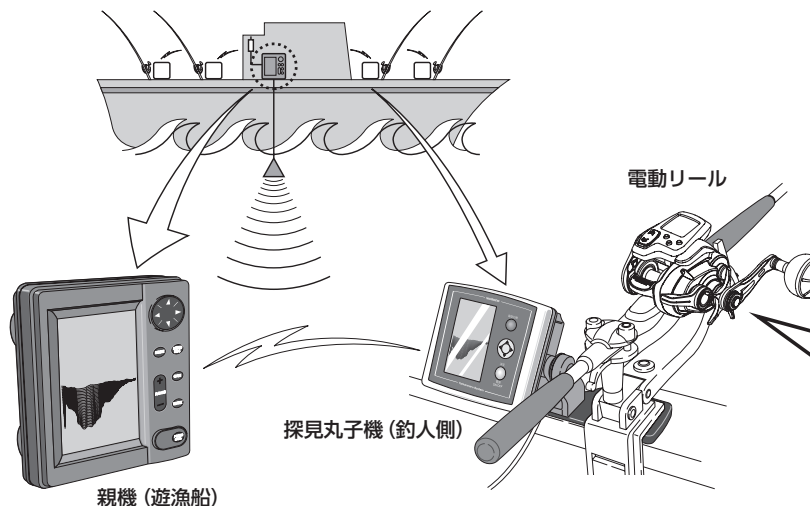
- 1 水深画面でSPEED SET (スピードセット) ボタンを押すと中間速設定画面が表示されます。
【初期設定】
ファイト速 : 22速
さそい速 : OFF
フッキングモード : OFF
- 2 ファイト速の設定を行います。
▼▲ボタンで増減して、好みのスピードに設定し決定ボタンを押してください。
- 3 次に、さそい速の設定を行います。
▼▲ボタンで増減して、好みのスピードに設定し決定ボタンを押してください。
- 4 次に、フッキングモードの設定を行います。
▼▲ボタンでONもしくはOFFを選択して、決定ボタンを押してください。
設定が完了し、水深画面に戻ります
(機能の詳細説明は…P37～38へ)

探見丸システムについて

探見丸システム 親機からの魚探映像を無線でキャッチ。船べりで魚探が見える！

あらかじめ遊漁船に設置された親機魚探からの情報を電動リールや探見丸子機がキャッチ。釣座に居ながらして魚探の映像を見ることができる画期的なシステムです。[探見丸対応遊漁船につきましては、弊社ホームページ等をご覧ください。]

※ご注意：電動リールや探見丸子機に映る映像はご自身の位置ではなく、親機送受波器の位置映像です。



さらに探見丸システム対応電動リールと組み合わせることで、双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。

1. 電動リールの操作が探見丸で可能に
[上/底切替 etc.]
2. 電動リールからのデータを探見丸で表示
[リール水深、棚タイマー etc.]
3. 双方のデータを組み合わせて
より便利な情報を表示
[仕掛軌跡 etc.]

※この電動リールでは棚停止・オートシャクリの操作はできません。電動リールの機種によって使える機能は異なります。

この電動リールは探見丸システム対応機種です。
探見丸システムを組み合わせた場合の機能についてはP92～93をご覧ください。

探見丸スクリーン

■探見丸スクリーン(魚探)機能

水中を想像する世界から、水深や水中の様子などが目で見て確認できるようにしました。

①分時マーク…時間経過の目安です。

バー1本で30秒です。その後の空白で30秒です。

②ACCU-FISH®(アキュフィッシュ)…単体魚のサイズ表示、単位はcm(センチメートル) (P27参照)

※魚群アラームのON/OFF切替可能

③仕掛けの軌跡[仕掛軌跡] (P31参照)

④反応…魚の反応です。

(目安: 赤色系が強い反応・黄色系が中間・青色系が弱い反応)

⑤底…赤色で表示。帯状になっている部分が底です。

⑥レンジ…単位はm(メートル)

⑦海底水深…画面右端が最新情報となります。

最新情報の水深を表示しています。

ご注意: 水深1,200mを超える場合は対応していません。

■電動リールの基本機能

⑧タッチドライブの設定値、棚タイマー、フォールスピード表示

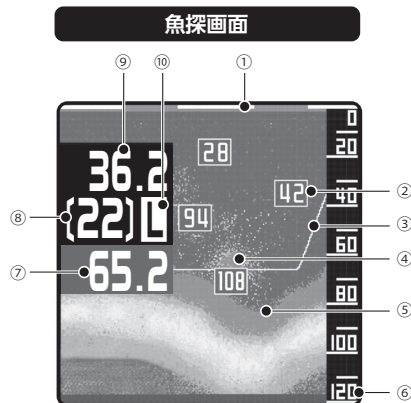
⑨リール水深(ラインの長さ)

⑩ [L]点灯…タッチドライブスピードロック機能がON

[L]消灯…タッチドライブスピードロック機能がOFF

※タッチドライブスピードロックのON/OFFの切替え可能。

タッチドライブスピードロックの説明は…P12~24, 37~38 参照



ACCU-FISH®(アキュフィッシュ) 機能

ACCU-FISH®(アキュフィッシュ) 機能とは単体魚を「サイズ」で表示します。

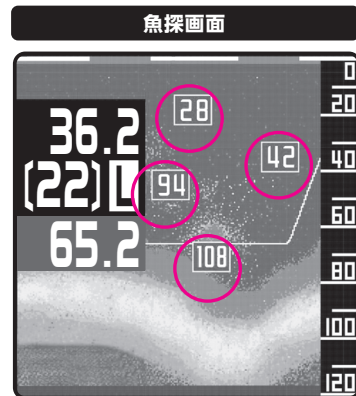
水深2mから100mの間で、10cmから199cmまでの魚を表示することができます。

ACCU-FISH®(アキュフィッシュ) 機能のメリット

10cm以上の単体魚の反応を「サイズ」で表示するため、ターゲットを見つけやすくなります。

ご注意：

単体魚サイズの値は単体魚の大きさを判断する目安になる参考値であり、正確な魚の大きさを示しているものではありません。



ACCU-FISH®(アキュフィッシュ) 対応船につきましては、シマノホームページの探見丸搭載船情報のご確認をお願いします。

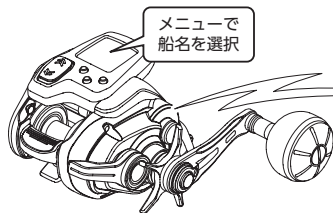
探見丸搭載船情報アドレス

https://fish.shimano.com/ja-JP/content/special_contents/fishing_info/tanken_shipinfo/kanto/index.html

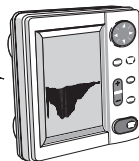
※「ACCU-FISH®(アキュフィッシュ)」は、古野電気株式会社の登録商標です。

電動リールと探見丸親機のアkses操作手順

① 電動リール電源 ON

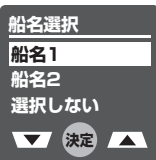


② 電動リール側で乗船される船名を選択

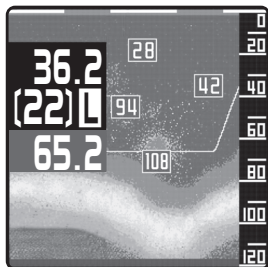


探見丸親機の電源が ON されている状態で、電動リール側で乗船される船名を選択してください。

電動リールカウンターの 船名選択画面



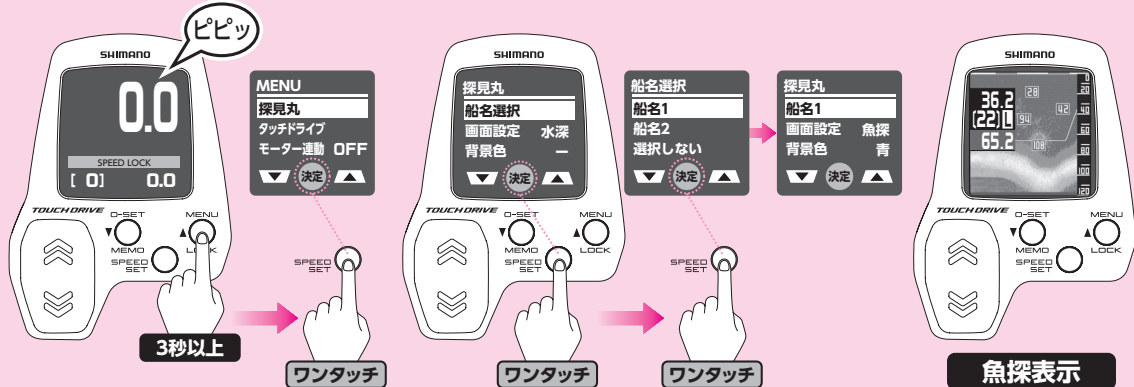
探見丸スクリーン



- ※ご注意 1：本機能は、探見丸親機搭載船に限り。またACCU-FISH®(アキュフィッシュ)機能はACCU-FISH®(アキュフィッシュ)対応の探見丸親機搭載船に限り。
 - ※ご注意 2：無線での通信のため、使用環境により通信が途切れ画面が乱れる場合がありますが、故障ではございません。
 - ※ご注意 3：船名選択での船名は、探見丸親機搭載船の船上にて表示されます。販売店様の店内やご自宅では表示されません。
- もし搭載船上でも表示しない場合船長様にお尋ねください。(探見丸親機の電源が入ってない場合、船名が表示されません。)

電動リールと探見丸親機のアクセス方法

水深画面



※画面設定で「魚探表示」を選択してください。

- 1** MENU(メニュー)ボタンを3秒以上押すと、メニュー画面に入ります。
「探見丸」を選択し、決定を押すと、探見丸画面に入ります。
- 2** 探見丸画面が表示されます。
「船名選択」を選択し、決定を押します。
船名選択画面に入ります。
乗船される船名を選択してください。
- 3** 船名を選択後、下記の設定が可能になります。
設定の方法は、P30～31をご参照ください。
●画面設定 ●背景色 ●ボトムライン
●仕掛け軌跡 ●ACCU-FISH® (アキュフィッシュ)
●魚群♪(アラーム)
- 4** 3の各種設定完了後、水深画面に戻ると、魚探表示になります。

探見丸設定の機能一覧

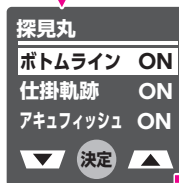


◎探見丸設定画面

カーソルの移動でメニューのリストがスクロールします。

機能名の右は現在の接続先を表します。(図の設定は例です。)

※船名を「船名1」と選択した後の画面になります。船名を選択後、下記の設定が可能になります。



- 画面設定
 - 背景色
 - ボトムライン
 - 仕掛軌跡
 - ACCU-FISH® (アキュフィッシュ)
 - 魚群♪ (アラーム)
- (図の設定は例です。)

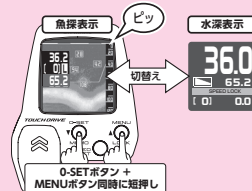


各機能の設定後は、探見丸設定画面に戻ります。メニュー画面に戻る場合は探見丸設定画面から「戻る」を選択し、決定してください。

※初期設定から設定を変えられた場合、電源を OFF されましても、設定は記憶されます。

■画面設定

画面を「魚探表示」「水深表示」「デモ表示」から選択できます。選択後、決定ボタンを押してください。



メニュー画面設定以外からも、「魚探表示」と「水深表示」の切替えができます。

0-SET+MENUボタンを同時に短押しすることにより「魚探表示」と「水深表示」の切替えができます。

※ただし、以下の場合のみ切替えができます。「船名が選択されている」かつ、「水深画面または魚探画面表示中」かつ、「モータが作動していない」

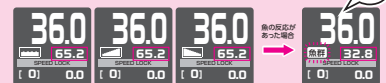
※魚探表示
(探見丸スクリーン)
リアルタイムで魚探を表示します。



※デモ表示
魚探のデモ画面を表示します。

※水深表示(探見丸スケール)

リアルタイムで海底水深や魚群水深(魚群♪(アラーム)がONの時)を表示します。



※水深表示がリアルタイムで変わります。

海底の形状をマークで表示します。
コフラット コフラット コフラット
※マークが点滅する場合、色画面上に上げり/下げ下がりを行います。

魚群水深表示
ACCU-FISH® (アキュフィッシュ)が表示した水深を表示します。また、アラームで通知します。

■背景色

魚探画面の背景色を「白」「青」「黒」から選択できます。
選択後、決定ボタンを押してください。



■ボトムライン

魚探画面の海底部に境界線を表示します。ON/OFFの切替え可能。
選択後、決定ボタンを押してください。



■仕掛軌跡

投入した仕掛けの軌跡を表示します。
底の形状と仕掛位置の相関の目安になり、アタリがあった水深など把握しやすくなります。ただし、潮流の影響などにより、ライン長が海底までの距離を上回る場合、画面に見える仕掛けの位置と実際の仕掛けの位置がずれることもあります。ON/OFFの切替え可能。選択後、決定ボタンを押してください。



■ACCU-FISH® (アキュフィッシュ)

単体魚のサイズを表示します。単位はcm(センチメートル)。
ON/OFFの切替え可能。選択後、決定ボタンを押してください



■魚群♪ (魚群アラーム)

ACCU-FISH® (アキュフィッシュ) [単体魚のサイズ]が表示した時にアラームで通知します。ON/OFFの切替え可能。選択後、決定ボタンを押してください。



■リールID

探見丸子機とアクセスする場合、「リールID」を選択し決定ボタンを押してください。探見丸子機とアクセスできるリールIDナンバー(8ケタ)を確認することができます。

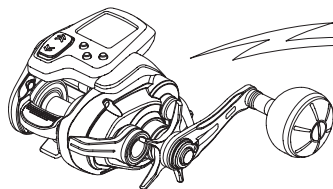


■戻る

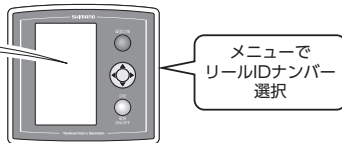
「戻る」を選択するとメニュー画面へ戻ります。

電動リールと探見丸子機のアkses操作手順

① 電動リール電源 ON



② 探見丸子機電源 ON



メニューで
リールIDナンバー
選択

① 電動リールの電源を ON にして、無線通信機能を ON にし、リール ID ナンバーを表示させてください。

② 探見丸子機の電源を ON にし、リール固有の ID ナンバーを選択してください。これでアクセス完了です。

※周りに無線通信モジュール内蔵のリールもしくは、スーパーケーブル(コード)ZB25を使用されていますと、複数の ID ナンバーが表示されますので間違いない様にご自身のリール ID ナンバーを選択してください。

※ご注意 1：無線での通信のため、使用環境により通信が途切れる場合がありますが、故障ではございません。

※ご注意 2：探見丸搭載船でのみ電動リールと探見丸子機の接続が可能です。

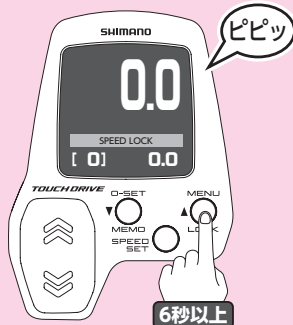
販売店様の店内やご自宅で、電動リールと探見丸子機の接続はできません。

(探見丸親機からの電波を受信することで、電動リールと探見丸子機の接続が可能になります。)

探見丸子機とアクセスするためのリールID ナンバーの表示の仕方

※ 2 つの方法があります。そのうちのひとつを下記に説明しています。もうひとつは P31 に説明しています。

水深画面



- 1** MENU(メニュー) ボタンを6秒以上押すと、探見丸子機との無線通信機能がONになります。

※初期設定は無線通信機能が OFF です。

ご注意:電源を OFF されたと、無線通信機が OFF になります。釣行ごとに、無線通信機能の設定を行ってください。

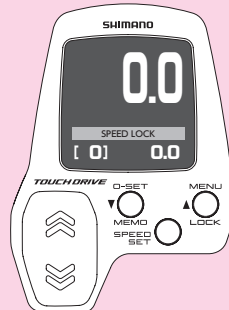


- 2** リール ID ナンバーを表示します。リール ID ナンバーが表示されている間、無線通信機能が ON になっています。

※探見丸子機側にリール ID ナンバー8ケタ表示と同じ8ケタの番号が表示されます。同じ8ケタの番号を選択しますと、探見丸子機とアクセスすることができます。

※お間違えのないようにご自身のリール ID ナンバーを選択してください。

水深画面



- 3** 探見丸子機とアクセスすると表示が水深画面になります。

ご注意: 探見丸子機と通信せず、そのまま1分間経過するか、いずれのボタンを押すか、スプールの回転を検知すると表示が水深画面に戻り、無線通信機能が OFF になります。

デジタルカウンターの各部の名称・メニュー画面の操作

◎タッチドライブ

巻上げスピードをらくらく調整(31段変速)。

◎フォールスピード表示

フォールスピードの目安を表示します。
※表示中は「[]」が点滅します。

◎ハンドルスピード表示

ハンドル巻上げ時のスピードを表示します。
※超微変速制御がONの時のみ表示します。

◎スピードインジケータ表示

速度変化を目で見てわかりやすくしました。

◎棚メモ

上からモード時はメモした水深を、
底からモード時はメモ位置からの差を表示します。

■MENU[メニュー]/LOCK[ロック]ボタン



押すごとにタッチドライブスピードロックのON/OFFの切り替えができます。巻上げ中の操作も可能です。

ON…[SPEED LOCK]が点灯。
OFF…[SPEED LOCK]が消灯。



メニュー画面が表示されます。
メニューから各機能の設定を変更できます。
メニュー画面の操作方法は右図をご覧ください。



探見丸子機と無線通信する機能をONにし、
リールIDナンバーを確認することができます。

■0-SET(0セット)/MEMO(メモ)ボタン



0セットします。
仕掛けを水面に合わせ
て0セットしてください。

※水深表示が10.1m以上で高切れ補正します。
結びなおした仕掛けは水面に合わせ高切れ補正してください。



棚をメモします。
選択しているモードにより、
表示される内容は異なります。

◎棚タイマー

仕掛けが目標の棚に到達してからの経過時間を表示します。
※0~59秒は1秒単位、1~99分は1分単位で表示します。

◎現在の水深

水面からの水深を表示します。
※水深は10cm単位です。
100m以上は上図のように1m単位になります。

999 → 100

◎モード表示

SPEED LOCK(タッチドライブスピードロック)
点灯(ON)または消灯(OFF)します。

◎電圧不足のお知らせ

電圧が不足した場合に [電池アイコン] が点滅で表示されます。

■SPEED SET(スピードセット)ボタン



タッチドライブの中間速設定画面が表示されます。

中間速設定は、「ファイト速」と「さそい速」の2つのスピードを設定することができます。

スピードは、それぞれ「1~30」または「OFF」に変更することができます。
また、「フッキングモード」のON/OFFの切り替えができます。

(初期設定は、ファイト速:17速、
さそい速:OFF、
フッキングモード:OFF
になっています。)

(機能の詳細説明は…P37~38へ)

●図は説明のために液晶を全部点灯させています。

《メニュー画面の基本操作》

メニューボタンを3秒以上押すと「ピピッ」のアラームが鳴り、下記のメニュー画面が表示されます。

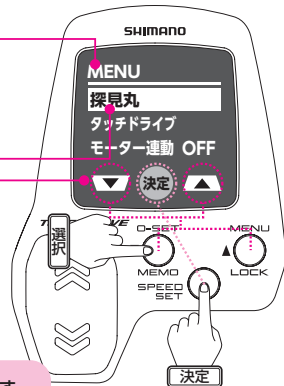
◎メニュー画面

カーソルの移動でメニューのリストがスクロールします。メニューから設定変更できる機能の一覧は、次ページをご覧ください。

◎カーソル

メニューを反転表示します。
機能の選択に使用します。

各ボタンの割り当てを表示しています。操作の際のガイドにご使用ください。



各ボタンでカーソルが上下に移動します。
数値の設定の場合は値が1ずつ増減します。

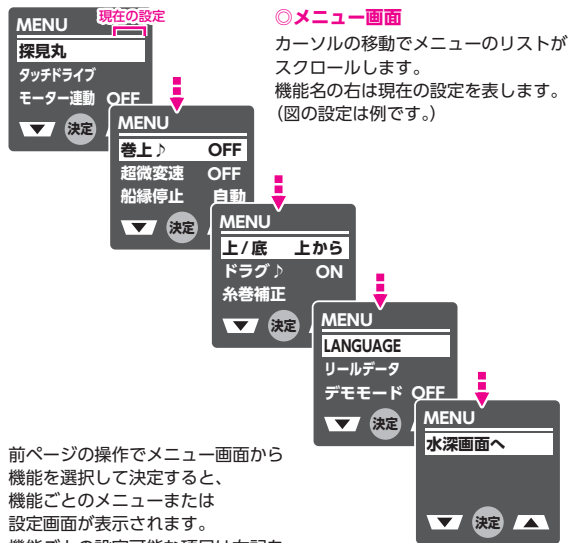
カーソルで選択した機能（または設定した数値）を決定します。

水深画面に戻る場合はメニュー画面から「水深画面へ」を選択し、決定してください。

モーターでの巻き上げ、もしくはハンドルで巻き上げますと、メニュー画面から水深画面に戻ります。

メニューから設定変更できる機能の一覧は、次ページをご覧ください。

メニューで設定の変更が可能な機能一覧



前ページの操作でメニュー画面から機能を選択して決定すると、機能ごとのメニューまたは設定画面が表示されます。機能ごとの設定可能な項目は右記をご覧ください。

各機能の設定後は、メニュー画面に戻ります。
水深画面に戻る場合はメニュー画面から「水深画面へ」を選択し、決定してください。

※初期設定から設定を変えられた場合、電源を OFF されましても、設定は記憶されます。

■探見丸

探見丸の設定を行います。
探見丸スクリーン (魚探) 機能を ON することで、魚探画面 (カラー) を電動リールに表示します。

→詳しい操作と説明はP26～31へ



■モーター運動 (モーター&クラッチ運動機能)

機能のON/OFFが可能です。

初期設定はモーター&クラッチ運動機能はOFFになっています。
機能を有効にする場合は設定をONにしてご使用ください。

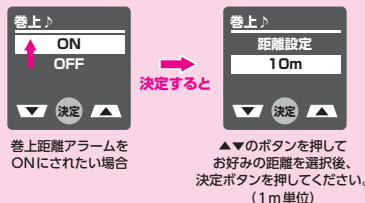
→詳しい操作と説明はP90～91へ

■巻上 (巻上距離アラーム)

「距離設定 (1m～50m)」または「OFF」の選択が可能です。

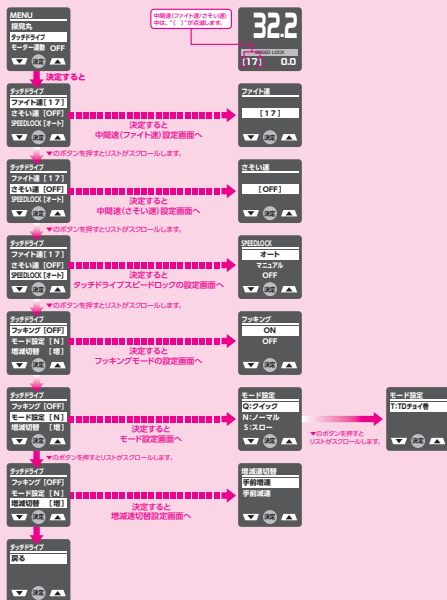
※初期設定はOFFになっています。

→詳しい操作と説明はP85～86へ



■ タッチドライブ

- ・中間速（ファイト速/さそい速）のスピード設定
- ・タッチドライブスピードロックの設定（オート/マニュアル/OFF）
- ・フッキングモードの設定（ON/OFF）
- ・3段階の感度設定（クイック/ノーマル/スロー）もしくは、「TDチョイ巻」の選択
- ・増減速切替の設定が可能です。



中間速設定(ファイト速/さそい速)のスピード設定方法

「ファイト速」及び「さそい速」の設定画面で、数値を▼▲ボタンで増減してお好みのスピードに設定し、決定ボタンを押してください。

中間速設定は、「ファイト速」と「さそい速」の2つのスピードを設定することができ、それぞれスピード[1]～[30]または[OFF]の選択が可能です。

※中間速設定とは、タッチドライブ(増速側)を1回強押しすると、設定したスピードになります。

ファイト速…魚を掛けた時、お好みのスピードで巻き上げが可能になりました。

魚を掛けた時の巻き上げスピードを設定します。

タッチドライブ(増速側)を1回強押しすると、設定したファイト速のスピードで巻き上げます。(さそい速OFFの場合)

さそい速…特に等速でさそう釣りにおいて、効果的に釣果を上げることができます。等速でさそうスピードを設定します。タッチドライブ(増速側)を1回強押しすると、設定したさそい速のスピードで巻き上げます。

ただし、さそい速をONに設定し、ファイト速をOFFに設定した場合、自動的にさそい速はOFFになり、ファイト速がONになります。

また、さそい速よりファイト速を遅いスピードに設定した場合、さそい速とファイト速の設定したスピードが入れ替わります。

ファイト速、さそい速共にONに設定した場合

タッチドライブ(増速側)を1回強押しすると、設定したさそい速のスピードで巻き上げが開始し、タッチドライブ(増速側)から指を離し、再度、タッチドライブ(増速側)を強押しすると、設定したファイト速のスピードで巻き上げます。

※中間速(ファイト速/さそい速)よりさらにスピードを上げる場合は、中間速(ファイト速/さそい速)で巻き上げ中に、タッチドライブ(増速側)から指を離し、再度、タッチドライブ(増速側)を押してください。

※中間速は増速側のみ有効です。タッチドライブ(減速側)を押した場合は、設定した速度(中間速)にならず、モーターはストップします。

※中間速(ファイト速/さそい速)の設定が共に[OFF]の場合は、タッチドライブ(増速側)を1回押し続けるとスピードがMAX スピードの[H]まで上がります。

※メニュー画面に移行せず、中間速(ファイト速/さそい速)を変更する方法もあります(設定方法はP24ご参照ください)

次ページにつづく

タッチドライブスピードロックの設定方法

タッチドライブスピードロック設定画面で、「オート/マニュアル/OFF」を▼▲ボタンでお好み設定し、決定ボタンを押してください。

オート(初期設定)…タッチドライブスピードロックのON/OFFの切替は、LOCKボタンを押すごとに切り替えることができますが、タッチドライブスピードロックがOFFの状態では船縁停止位置(表示6.0m以下)でクラッチをOFFにすると、自動でタッチドライブスピードロックがONになります。(魚を掛け巻き上げる時、タッチドライブスピードロックをONにし忘れることがないように配慮した設定です。)

マニュアル…タッチドライブスピードロックのON/OFFの切替は、LOCKボタンを押すごとに切り替わります。(ボタン操作のみ)

OFF…常時、タッチドライブスピードロックはOFFです。(LOCKボタン無効)

フッキングモードの設定方法

フッキングモードのONとOFFの切替が可能です。

フッキングモード設定画面で、▼▲ボタンでお好みの方に設定し、決定ボタンを押してください。

※初期設定：OFF

タッチドライブの感度設定方法

モード設定画面で、「クイック/ノーマル/スロー/TDチョイ巻」を▼▲ボタンでお好みの感度に設定し、決定ボタンを押してください。

Q: クイック…ノーマル設定より弱い押圧で瞬時にスピード調整が可能になります。(感度アップ)

N: ノーマル…初期設定

S: スロー…押圧に関係なく、ノーマル設定より緩やかにスピード調整が可能になります。(感度ダウン)

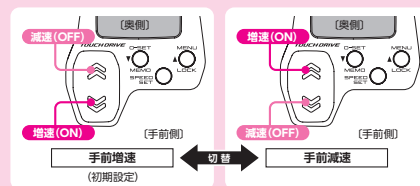
T: TDチョイ巻…押圧によりスピード調整が可能で、かつスイッチを押している間、電動で巻き上げることができます。

増減速切替の設定方法

タッチドライブのスイッチの「増速(ON)」と「減速(OFF)」の切替が可能です。増減速切替画面で、▼▲ボタンでお好みの方に設定し、決定ボタンを押してください。

手前増速…スイッチの手前側を押すと増速(ON)します。(初期設定)

手前減速…スイッチの手前側を押すと減速(OFF)します。



【TDチョイ巻のご注意】

- TDチョイ巻を設定した場合、タッチドライブスピードロックが無効(常時OFF)になり、フッキングモードも無効(常時OFF)になります。
- タッチドライブの減速側を押してもモーターは動作しません。
- 中間速設定が1段階(ファイト速ON、さそい速OFF)の場合は、MAXスピードは設定したファイト速が上限になり、スイッチを押している間、電動で巻き上げることができます。
- 中間速設定が2段階(ファイト速ON、さそい速ON)の場合は、タッチドライブ(増速側)の1回目の操作で強押しすると、さそい速で巻き上げます。指を離してもさそい速を持続します。2回目の操作で強押しすると、MAXスピードは設定したファイト速が上限になり、タッチドライブを離すと減速しさそい速で巻き上げます。
- ※さそい速以下のスピードで巻き上げ中は、タッチドライブから指を離しても電動の巻き上げは持続されます。
- 中間速設定がOFF(ファイト速OFF、さそい速OFF)の場合は、MAXスピードはHi速が上限になり、スイッチを押している間、電動で巻き上げることができます。

■ 超微変速制御

機能のON/OFFが可能です。

スローな巻上げをより細かく調整することができます。

■ 船縁停止位置

「自動設定」と「1m～6mの範囲内で任意に設定」の選択が可能です。

※初期設定は自動設定です。

→詳しい操作と説明はP77～79へ



■ 上/底 (上からモード/底からモード)

上からモードと底からモードを切り替ええます。

→詳しい操作と説明はP87～89へ

■ ドラグ♪ (e-エキサイティングドラッグサウンド)

機能のON/OFFが可能です。

ドラッグが滑ると爽快地音が鳴ります。

エキサイティングドラッグサウンドが電子音になりました。

アングラーを白熱させる音が鳴り響きます。

■ 糸巻補正 (糸巻学習補正)

カウンターの水深と実際のラインマーカのずれの補正が可能です。

→詳しい操作と説明はP80～82へ

■ LANGUAGE

日本語と英語の切替が可能です。

※探見丸メニューは、常に日本語表示です。

■ リールデータ

リールデータ (巻上距離・使用時間・ライン残量) の確認ができます。

※ライン残量表示のご注意 … 水深表示±10未満で0セットをされた場合は、糸巻学習は補正されないためライン残量は更新されません。

■ デモモード

モーター動作が常時可能になります。

デモモードをONにすると水深画面が下図のようになります。

※デモ画面表示後、初めに「MENU」ボタンを1回押してください。

その後、モーターが作動するようになります。



ご注意：デモモードON時のトラブル (穂先への巻込みなど) につきましては、一切責任を負いかねます。

※魚探のデモ表示設定はP30をご参照ください (魚探のデモ表示では、モーター動作はリールの水深表示が1.1m以上で可能になります)

↓ MENU ボタンを押すと



■ 水深画面へ

メニュー画面を抜けて、水深画面へ戻ります。

各部の名称

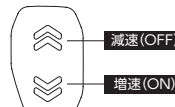
タッチドライブ

巻上げ操作を親指1本で可能にしたシーソー型感圧スイッチです。
押圧により巻上げパワーまたはスピードを瞬時に調整できます(31段変速)。
カウンター1.0m以下では安全のためスイッチを動かしての巻上げはできないようになっております。

デジタルカウンター

[奥側] 初期設定

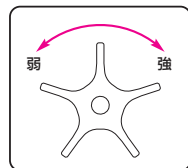
TOUCH DRIVE



[手前側]

スタードラグ

魚が強く引いた時、
ハリス切れをおこさないように
糸を送り出す力を調整します。



クラッチレバー

ハンドル正転または手で戻すと
ONになります。

ON : シカケの巻き上げ
OFF : スプールのフリーにしてシカケをおろします。

フォールレバー

フォールスピードを調整します。

ラインホルダー

糸を止めて置くものです。

スピードクラッチ

クラッチレバーを押す毎に、クラッチのON/OFF切替を可能にしました。
ロッドとリールを握ったまま、スプールから指を離さず(バックラッシュを防ぐ)に、素早くクラッチのON/OFF切替が可能になり、狙い棚をはずさないメリットがあります。



クラッチOFF



クラッチON



レベルワインド

※巻上げ時に指をはさまない
よう注意してください。

電源コネクター

※ご使用時以外はコネクターキャップを取り付けてください。

セーフティレベルwindカバー

フォールレバー操作方法

フォールレバーとは、フォールスピードを容易にコントロールできるレバーです。

「速いフォール」はもちろん、「スローフォールで誘う(タチウオ、コマセマダイ、タイラバ、落とし込みなど)」、

「速いフォール→スローフォールのように、フォール速度を変える可変フォール」など、誘いの幅が大きく広がります。

また、一定のブレーキを掛けることができ、サミングよりも安定したフォールが行えます。

《操作方法》

■フォールスピードを遅くしたい(ブレーキ力を強めたい)場合。

ハンドル回転方向に、レバーを回転させます。

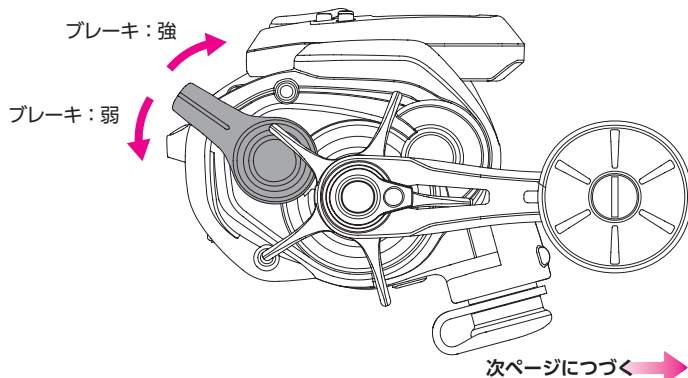
■フォールスピードを速くしたい(ブレーキ力を弱めたい)場合。

手前方向に、レバーを回転させます。

※フォールレバーの内部にワンウェイローラーベアリングを搭載することで、ブレーキ力を強くしてもハンドル回転やモーター巻上げに抵抗が生じません。

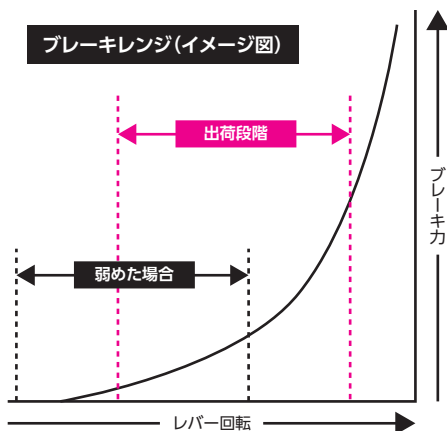
※フォールスピードを調整するものであり、ドラッグ力を調整するものではありません。

※保管時には、ブレーキを弱めておいてください。

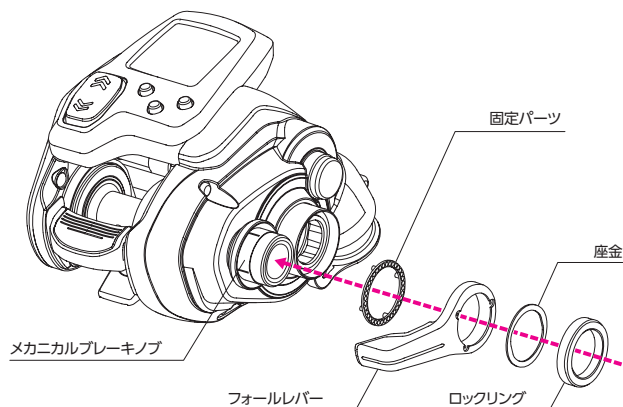


フォールレバー設定方法 (応用編: ブレーキレンジの設定)

レバー操作域でのブレーキレンジを出荷時より弱めることができます。
(出荷時よりもブレーキレンジを強めると破損の恐れがございますのでご注意ください。)



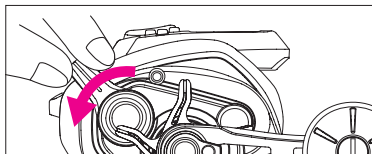
まず初めに、下記の構造をご確認ください。
フォールレバーは、レバーでメカニカルブレーキノブを回転させる機構です。
固定パーツとロックリングで、レバーをメカニカルブレーキノブに固定しています。
※ロックリングはメカニカルブレーキノブではありません。
ロックリングを締めたり緩めたりしても、メカニカルブレーキ力は変わりません。



フォールレバー設定方法 (応用編: ブレーキレンジを弱めたい場合)

※まず初めにP42をご確認ください。

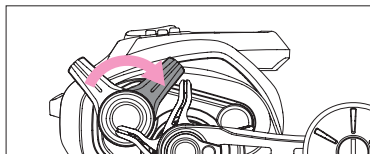
※ブレーキレンジを強く設定すると、レバーを最下部に回転させた際にも、ブレーキが掛かります。



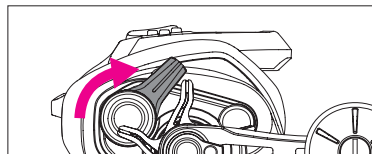
- ① レバーを支えながら、ロックリングを、ハンドル回転と逆方向に回転させ緩めます。

※フォールレバーをメカニカルブレーキノブからスライドできる状態になります。

※ロックリングの緩めすぎは、脱落に繋がりますのでご注意ください。



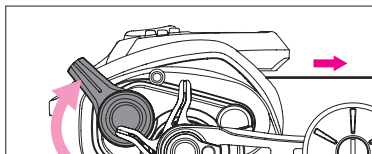
- ② レバーを上部にスライドします。
スライド量が大きいほど、ブレーキレンジは弱まります。



- ③ ロックリングをハンドル回転方向に回転させしっかり締めこみます。

※レバーのガタツキがないことをご確認ください。

※ロックリングの締め込みが不十分だと、脱落に繋がりますのでご注意ください。



- ④ クラッチを切ります。レバーを回転させながら糸を引き出して、ブレーキカーブを確認してください。

※ブレーキレンジをさらに弱めたい場合は、当ページ①～④を再度行ってください。

※ブレーキレンジを出荷時に戻したい場合は、P44を参照してください。

※強く締めこみすぎると破損の恐れがございますのでご注意ください。

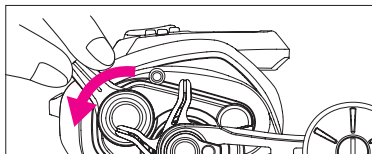
レバーを最下部に回転させた際、ブレーキが掛かる場合は締めすぎです。

次ページにつづく ➡

フォールレバー設定方法 (応用編: ブレーキレンジを弱めすぎた場合)

※まず初めにP42をご確認ください。

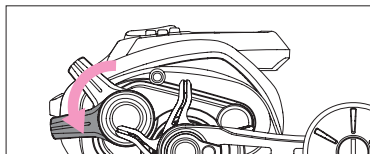
※ブレーキレンジを強く設定すると、レバーを最下部に回転させた際にも、ブレーキが掛かります。



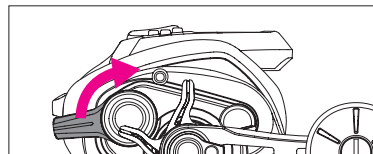
- ① レバーを支えながら、ロックリングを、ハンドル回転と逆方向に回転させ緩めます。

※フォールレバーをメカニカルブレーキノブからスライドできる状態になります。

※ロックリングの緩めすぎは、脱落に繋がりますのでご注意ください。



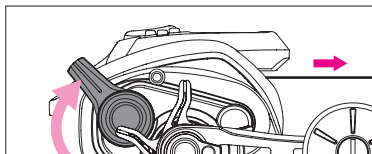
- ② レバーを下部にスライドします。
スライド量が大きいほど、ブレーキレンジは強まります。



- ③ ロックリングをハンドル回転方向に回転させしっかり締めこみます。

※レバーのガタツキがないことをご確認ください。

※ロックリングの締め込みが不十分だと、脱落に繋がりますのでご注意ください。



- ④ クラッチを切ります。レバーを回転させながら糸を引き出して、ブレーキカーブを確認してください。

※ブレーキレンジをさらに強めたい場合は、当ページ①～④を再度行ってください。

※ブレーキレンジを弱めたい場合は、P43を参照してください。

※強く締めこみすぎると破損の恐れがございますのでご注意ください。

レバーを最下部に回転させた際、ブレーキが掛かる場合は締めすぎです。

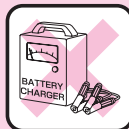
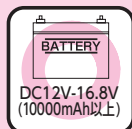
電源とケーブルについて

1 お取り扱い上の注意

電源について

電源は公称電圧が12Vから16.8V(リチウムイオンバッテリーなど)までのものをご使用ください。リチウムイオンバッテリーを使用する際は、シマノ・リチウムイオンバッテリーをご使用ください。他社メーカーのバッテリーを使用された場合、リールおよびバッテリーが破損する場合があります。指定外の電源(たとえば家庭用の交流100V、船装備の高電圧など)ではご使用できません。バッテリーチャージャーなどは絶対に使わないでください。

- 船に備え付けの電源を利用される時は、電圧が直流(DC)12Vから16.8Vであることをご確認ください。(船のバッテリーをご使用になる場合は、12Vのバッテリーか、DC-DCコンバータにより24Vから12Vに変換されたものに限りです。)また、端子がサビていたり、電圧が安定しておりませんと、リールが正常に作動しない場合があります。
- 十分に充電したバッテリーをご使用ください。
- バッテリーは長期間使用されますと、次第に充電できる容量が少なくなります。その場合は、新しいバッテリーをお求めください。
- AC電源は絶対通電させないでください。カウンター部の故障となります。



本製品はハイスピード、ハイパワーの高性能機種となっております。ご使用になる際は弊社、バッテリーをご使用になるようお勧めいたします。

ケーブルについて

電源との接続は、必ずシマノ純正ケーブルを用いてください。ケーブルは消耗品です。使用頻度にもよりますが、2~3年で交換することをお勧めします。

ご注意：純正以外のケーブルを使用されると、リールが正常に作動しない場合があります。また、ケーブルは乱暴に扱わないでください。踏んだり、折り曲げたりすると故障の原因となります。電源ケーブルのワニ口クリップ部はモーターの負荷によって大電流が流れると発熱する場合があります。電源端子(バッテリー端子)とワニ口をしっかり挟み込んで使用してください。本製品のケーブルは2芯タイプとなっています。6芯タイプのケーブルは使用できません。釣行時には持参するケーブルのご確認をお願いします。

2 バッテリーとの接続方法

1 バッテリーに付属のケーブルを接続してください。

赤クリップを(+)側に、黒クリップを(-)側につないでください。

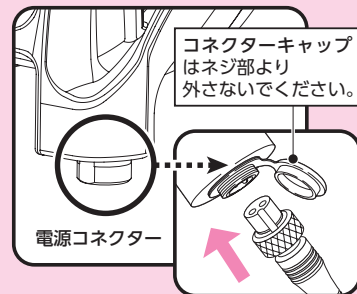
※(+)側、(-)側を逆に接続した場合、リールが破損する場合があります。

2 リールとケーブルを接続してください。

ケーブルのプラグの凹部と、リールの電源のコネクターの凸部を合わせ、奥まで差し込んで、ネジを締めてください。

※ボタンを押しながら電源を接続しないでください。

※若干のガタが出るものがありますが、ご使用上問題はありません。

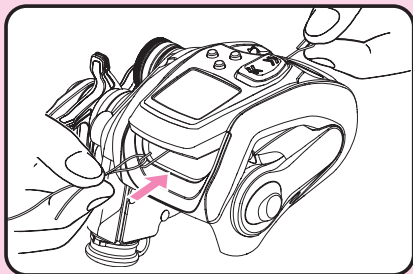


学習方法 (使用するラインの実測値をリールに記憶させます)

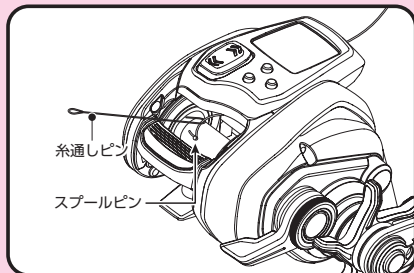
糸をセットします。

1 糸をレベルwindに通します。

糸を通すときは、付属の糸通しピンを使用することをおすすめします。



2 スプールピンに糸を結んでください。



学習方法の選択

まず次ページの操作で水深画面から学習モードに入り、使用する糸の種類に合った学習方法を選択します。

それぞれの学習方法については次項からの説明をご覧ください。

※電源をつないでないとこの操作は行えません。

※カウント値が 6 m 以下で操作してください。

6.1m 以上の時はいったん 0 セットしてください。

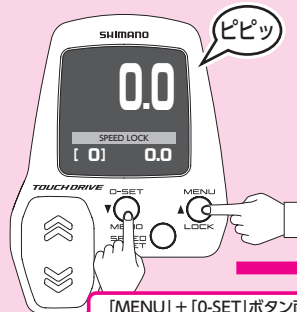
ご注意：

不足した電圧  で学習されると途中で液晶が消える場合があります。
この場合、学習は始めからやり直してください。

学習モード一覧

水深画面

電源 ON 時はこの状態です。
(※初期画面)



「MENU」+「O-SET」ボタン両方
同時3秒以上押しで学習モードへ
※ただし水深表示6m以下で機能します。

※学習中の
各ボタンの
割り当てを
表示します。



学習方法の選択

カーソルの移動で
糸巻学習メニューが
スクロールします。



糸巻学習
戻る

決定



ワンタッチで決定

※図の選択は例です。

決定すると選択した
学習が始まります。
くわしくは以降の
各学習のページへ!!

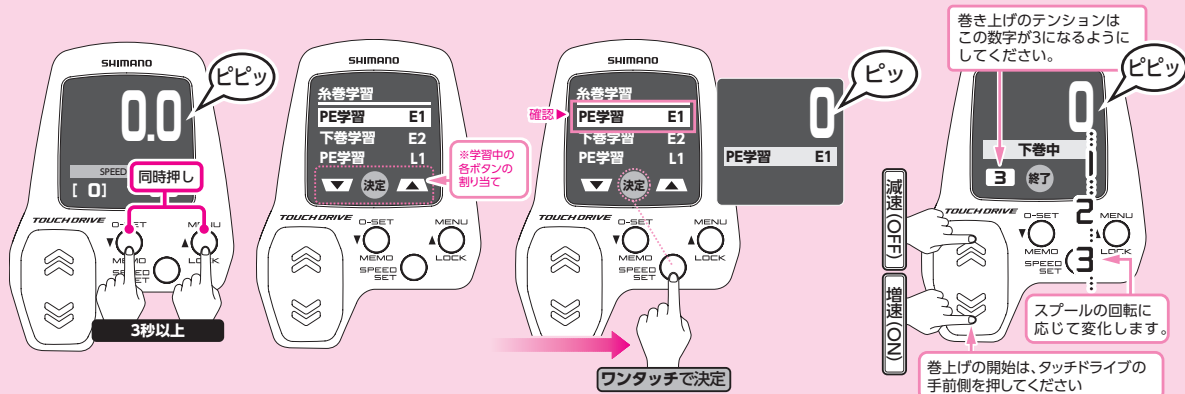
	下巻をしない場合	下巻をする場合	下巻を完了している場合 (ラインを巻き替える場合)	引出学習をする場合
これから巻き取るラインの距離が 正確に分かる場合	① E1 P48へ	② E2 P50へ	③ E2 P54へ	
これから巻き取るラインの距離が 正確に分からない場合	④ L1 P58へ	⑤ L2 P60へ	⑥ L2 P64へ	
すでに糸巻きが完了している場合				⑦ P1 P68へ

次ページにつづく

学習方法 (使用するラインの実測値をリールに記憶させます)



1 「下巻きをしない」かつ「これから巻き取るラインの長さが正確に分かる場合」 PEライン学習 (E1)



- 1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット(P73～74参照)しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(水深画面の状態です。)
O-SET(Oセット)ボタン、MENU(メニュー)ボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。
※デモモードONの時、糸巻学習モードに入ることができません。

- 2 糸巻学習メニューが表示されます。
※学習中は各ボタンの機能が変更され、画面の下段に割り当てが表示されますのでご確認ください。
「PE学習 E1」が選択されていることを確認し、決定を押します。
表示が図のように変わります。
(学習方法の選択について、詳しくはP46～47をご参照ください。)

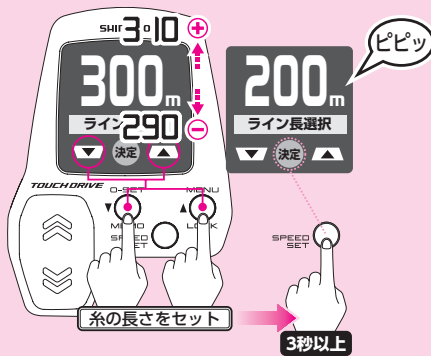
- 3 タッチドライブで糸を巻いてください。
「ピッ」のアラームが鳴り、スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。
速度はタッチドライブで調節できます。巻上げの速度を上げたいときは、タッチドライブの手前側を押し続けてください。巻上げを止めるときは、タッチドライブの奥側を押し続けてください。
※タッチドライブご使用時の巻上げ速度は、中間速設定を有効にしています。(中間速につきましては、詳しくはP12, 24をご参照ください。)

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 4** 糸を完全に巻き終えたら、SPEED SETボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。



- 5** ▲▼ボタンで糸の長さをセットし、SPEED SETボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

※初期設定は300mです。

(図は300mから200mに変更した場合です。)

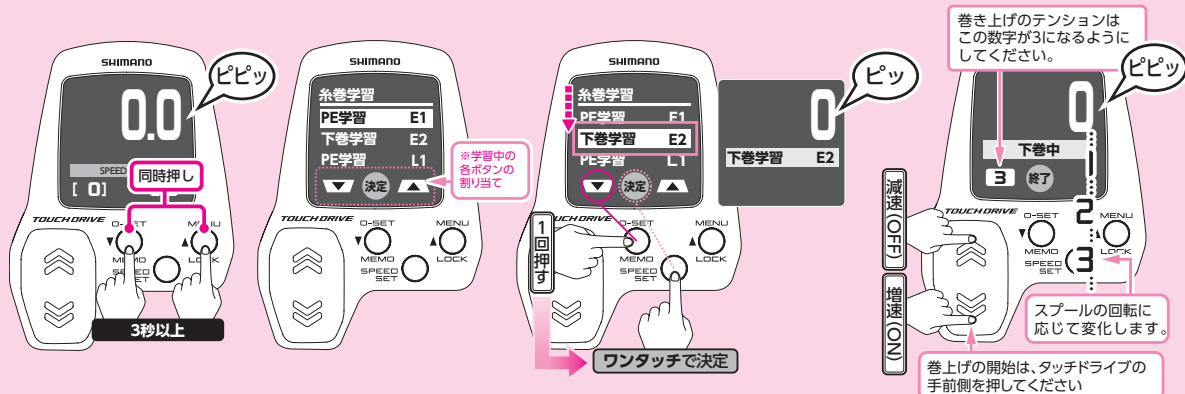
- 6** 表示が水深画面に戻り、学習は完了です。
(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります)

※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、P80～82の「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

2 「下巻きをする」かつ「これから巻き取るラインの長さが正確に分かる場合」 下巻き学習 (E2)

※PE 0.8号200m/PE 1号100mを巻かれる場合：スプールの下巻きラインを使用してください。

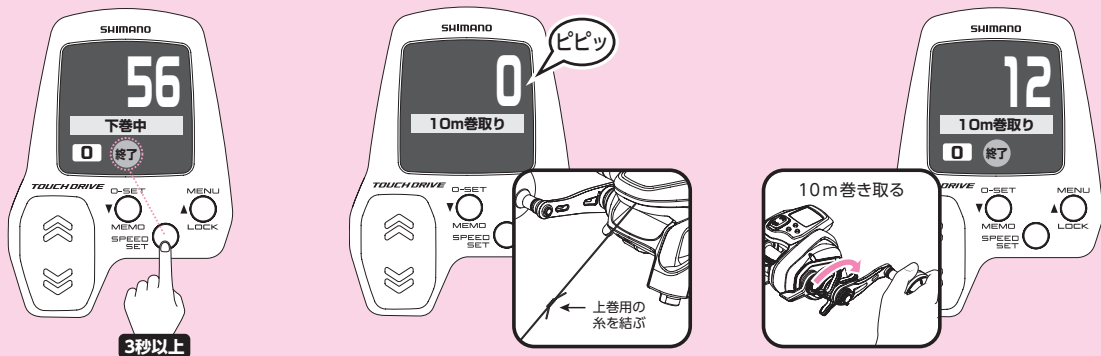


- 1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット (P73～74参照) しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(水深画面の状態です。)
O-SET (0セット) ボタン、MENU (メニュー) ボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。
※デモモードONの時、糸巻学習モードに入ることができません。

- 2 糸巻学習メニューが表示されます。
※学習中は各ボタンの機能が変わり、画面の下段に割り当てが表示されますのでご参照ください。
▼ボタンで「下巻学習 E2」を選択し、決定を押します。
表示が図のように変わります。
(学習方法の選択について、詳しくはP46～47をご参照ください。)

- 3 タッチドライブで糸を巻いてください。
「ピッ」のアラームが鳴り、スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力 (糸のテンション) を数字で表示します。数字=kgではありません。
速度はタッチドライブで調節できます。巻き上げの速度を上げたいときは、タッチドライブの手前側を押し続けてください。巻き上げを止めるときは、タッチドライブの奥側を押し続けてください。
※タッチドライブご使用時の巻き上げ速度は、中間速設定を有効にしています。(中間速につきましては、詳しくはP12, 24をご参照ください。)

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



4 下巻き用の糸を巻き終えたら、SPEED SETボタンを3秒以上押してください。

5 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
巻き終えた下巻き糸に、上巻き用の糸を結びます。

6 上巻き糸を正確に10m分巻き取ります。スプールの回転に応じて表示が変化します。

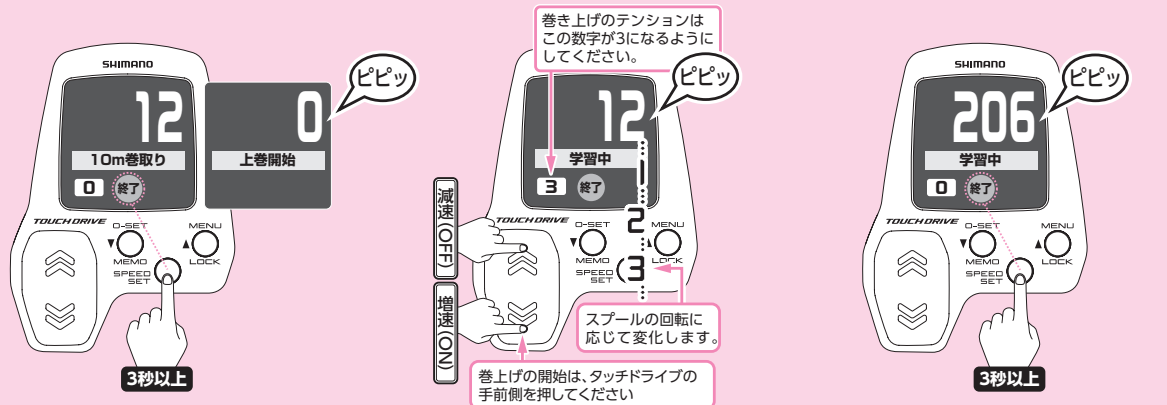
10m巻き取りのご注意

表示中の数字「10」=10mではありません。

- ラインにマーカ表示がある場合は、マーカを見て10mの計測が必要です。
- ラインにマーカ表示がない場合は、メジャーなどで10mの計測が必要です。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

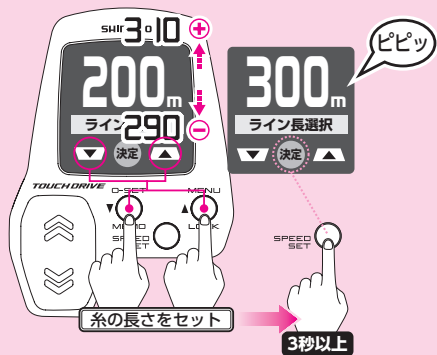


- 7** SPEED SET ボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

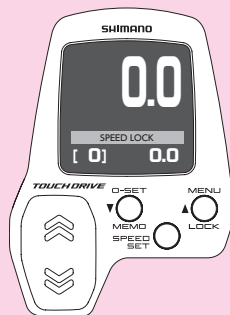
- 8** タッチドライブで糸を巻いてください。スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。速度はタッチドライブで調節できます。巻き上げの速度を上げたいときは、タッチドライブの手前側を押し続けてください。巻き上げを止めるときは、タッチドライブの奥側を押し続けてください。
※タッチドライブご使用時の巻き上げ速度は、中間速設定を有効にしています。(中間速につきましては、詳しくはP12, 24をご参照ください。)

- 9** 糸を完全に巻き終えたら、SPEED SET ボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。



- 10** ▲▼ボタンで糸の長さをセットし、SPEED SET ボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。
※初期設定は200mです。(図は200mから300mに変更した場合です。)



- 11** 表示が水深画面に戻り、学習は完了です。
(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。
※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、P80～82の「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

3 「下巻きを完了している場合(ラインを巻き替える場合)」かつ「これから巻き取るラインの長さが正確に分かる場合」 下巻き学習 (E2)



1 巻き終えた下巻き糸に、上巻きの糸を結びます。

※ 下巻き糸に上巻きの糸を結び際、下巻き糸をレベルウィンドの穴に通し、下巻き糸を約50cm糸を引き出して上巻きの糸を結んでください。

※ デモモードONの時、糸巻学習モードに入ることができません。

下巻き糸を約50cm出した状態で、糸巻学習を初めてください。

2 カウント値が6m以下で操作します。 6.1m以上の時は0セット(P73～74参照)しておきます。

クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。

(水深画面の状態です。)

0-SET(0セット)ボタン、MENU(メニュー)ボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。

3 糸巻学習メニューが表示されます。

※ 学習中は各ボタンの機能が変わり、画面の下段に割り当てが表示されますのでご参照ください。

▼ ボタンで「下巻学習 E2」を選択し、決定を押します。

表示が図のようになります。

(学習方法の選択について、詳しくはP46～47をご参照ください。)

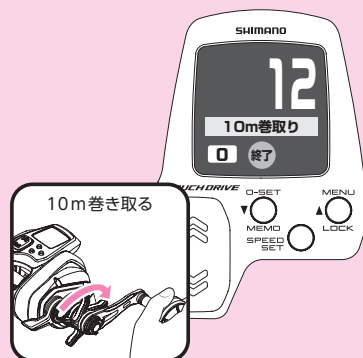
注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



4 上図のようにハンドルで結び目まで巻き取ると、上図の画面になりますので、SPEED SETボタンを3秒以上押してください。



5 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。



6 上巻き糸を正確に10m分巻き取ります。スプールの回転に応じて表示が変化します。

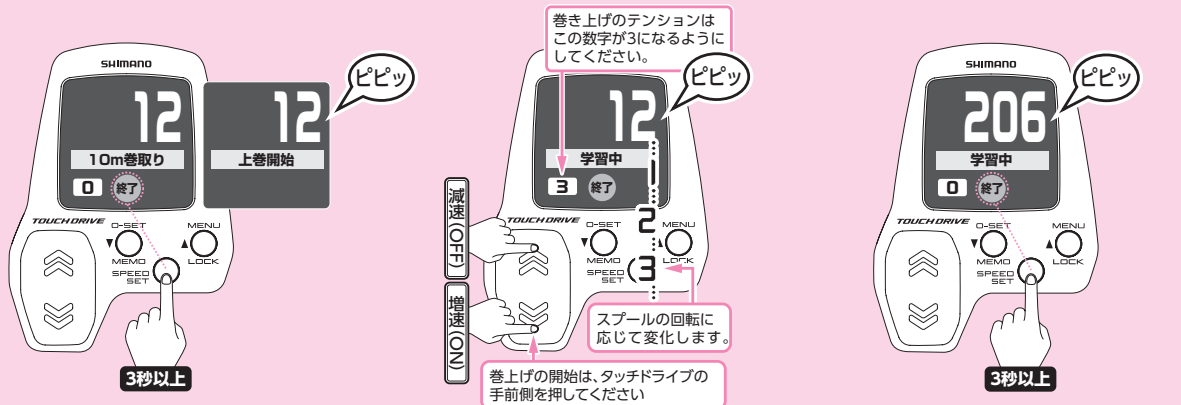
10m巻き取りのご注意

表示中の数字「10」=10mではありません。

- ラインにマーカース表示がある場合は、マーカースを見て10mの計測が必要です。
- ラインにマーカース表示がない場合は、メジャーなどで10mの計測が必要です。

次ページにつづく ➡

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。



- 7** SPEED SETボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

- 8** タッチドライブで糸を巻いてください。スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。速度はタッチドライブで調節できます。巻き上げの速度を上げたいときは、タッチドライブの手前側を押し続けてください。巻き上げを止めるときは、タッチドライブの奥側を押し続けてください。
※タッチドライブご使用時の巻き上げ速度は、中間速設定を有効にしています。(中間速につきましては、詳しくはP12, 24をご参照ください。)

- 9** 糸を完全に巻き終えたら、SPEED SETボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。



- 10** ▲▼ボタンで糸の長さをセットし、SPEED SET ボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。
※初期設定は200mです。(図は200mから300mに変更した場合です。)

- 11** 表示が水深画面に戻り、学習は完了です。
(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります)
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。
※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、P80～82の「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

4 「下巻きをしない」 かつ 「これから巻き取るラインの長さが正確に分からない場合」 PEライン学習 (L1)

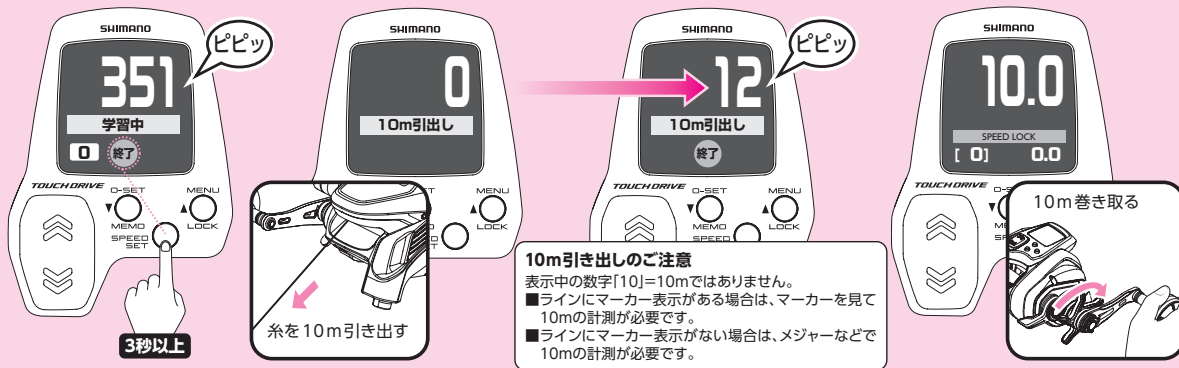


- 1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット (P73～74参照) しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(水深画面の状態です。)
O-SET (0セット) ボタン、MENU (メニュー) ボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。
※デモモードONの時、糸巻学習モードに入ることができません。

- 2 糸巻学習メニューが表示されます。
※学習中は各ボタンの機能が変更され、画面の下段に割り当てが表示されますのでご参照ください。
▼ボタンで「PE学習 L1」を選択し、決定を押します。
表示が図のようになります。
(学習方法の選択について、詳しくはP46～47をご参照ください。)

- 3 タッチドライブで糸を巻いてください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力 (糸のテンション) を数字で表示します。数字=kgではありません。
速度はタッチドライブで調節できます。巻き上げの速度を上げたいときは、タッチドライブの手前側を押し続けてください。巻き上げを止めるときは、タッチドライブの奥側を押し続けてください。
※タッチドライブご使用時の巻き上げ速度は、中間速設定を有効にしています。(中間速につきましては、詳しくはP12, 24をご参照ください。)

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 4** 糸を完全に巻き終えたら、SPEED SETボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

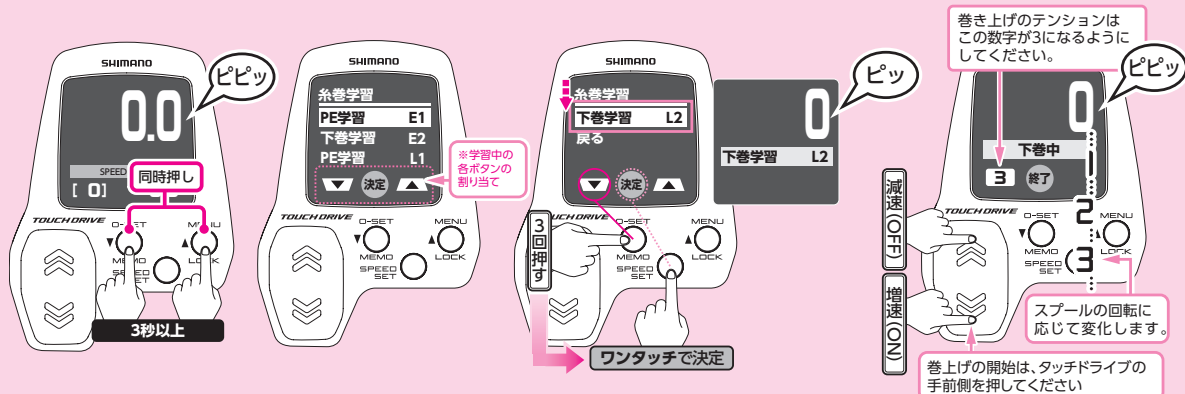
- 5** 糸を正確に10m分引き出します。(糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカースの数で確認します。)
学習を終了するため、SPEED SETボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

- 6** 表示が水深画面に戻り、学習は完了です。
(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。
※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、P80～82の「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

- 7** 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

5 「下巻きをする」かつ「これから巻き取るラインの長さが正確に分からない場合」 下巻き学習 (L2)

※PE 0.8号200m/PE 1号100mを巻かれる場合：スプールの下巻きラインを使用してください。

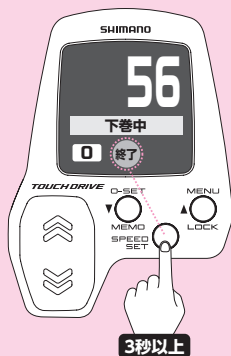


- 1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット (P73～74参照) しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(水深画面の状態です。)
0-SET (0セット) ボタン、MENU (メニュー) ボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。

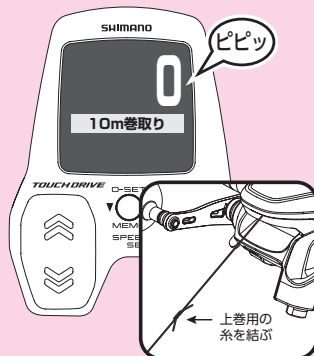
- 2 糸巻学習メニューが表示されます。
※学習中は各ボタンの機能が変更され、画面の下部に割り当てが表示されますのでご参照ください。
▼ボタンで「下巻学習 L2」を選択し、決定を押します。
表示が図のようになります。
(学習方法の選択について、詳しくはP46～47をご参照ください。)

- 3 タッチドライブで糸を巻いてください。
「ビッ」のアラームが鳴り、スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力 (糸のテンション) を数字で表示します。数字=kgではありません。
速度はタッチドライブで調節できます。巻き上げの速度を上げたいときは、タッチドライブの手前側を押し続けてください。巻き上げを止めるときは、タッチドライブの奥側を押し続けてください。
※タッチドライブご使用時の巻き上げ速度は、中間速設定を有効にしています。(中間速につきましては、詳しくはP12, 24をご参照ください。)

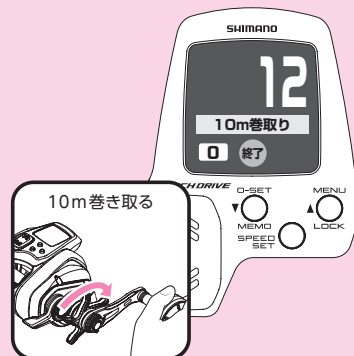
カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 4** 下巻き用の糸を巻き終わったら、**SPEED SET**ボタンを3秒以上押してください。



- 5** 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
巻き終えた下巻き糸に、上巻きの糸を結びます。



- 6** 上巻き糸を正確に10m分巻き取ります。
スプールの回転に応じて数値が変化します。

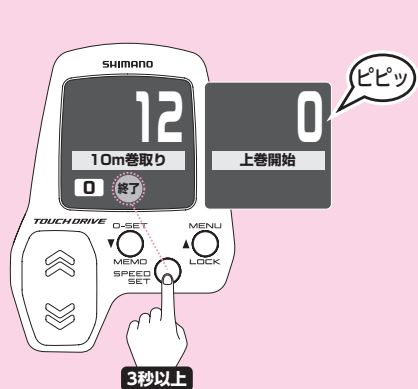
10m巻き取りのご注意

表示中の数字「10」=10mではありません。

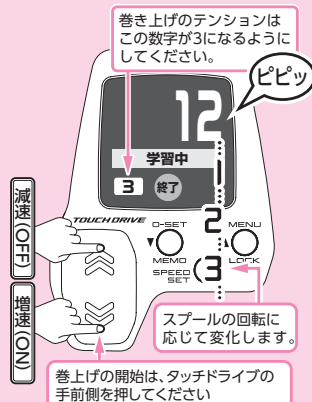
- ラインにマーカ表示がある場合は、マーカを見て10mの計測が必要です。
- ラインにマーカ表示がない場合は、メジャーなどで10mの計測が必要です。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 7** SPEED SETボタン を3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

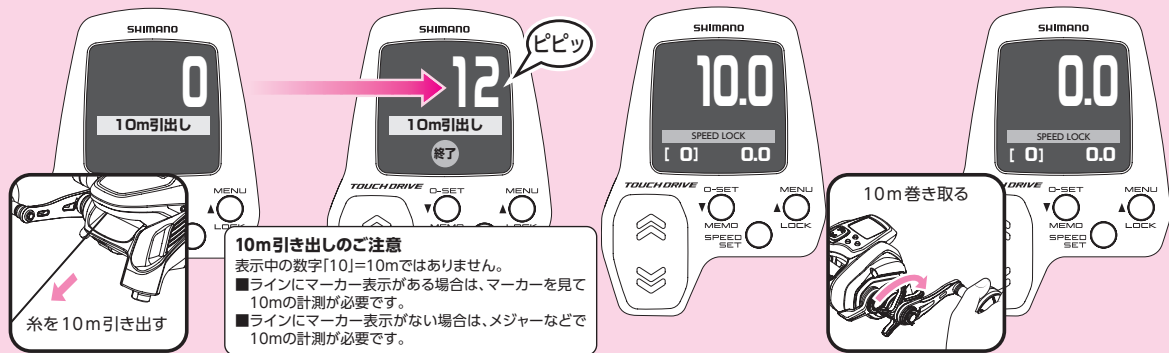


- 8** タッチドライブで糸を巻いてください。スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。速度はタッチドライブで調節できます。巻き上げの速度を上げたいときは、タッチドライブの手前側を押し続けてください。巻き上げを止めるときは、タッチドライブの奥側を押し続けてください。
※タッチドライブご使用時の巻き上げ速度は、中間速設定を有効にしています。(中間速につきましては、詳しくはP12、24をご参照ください。)



- 9** 糸を完全に巻き終わったら、SPEED SETボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

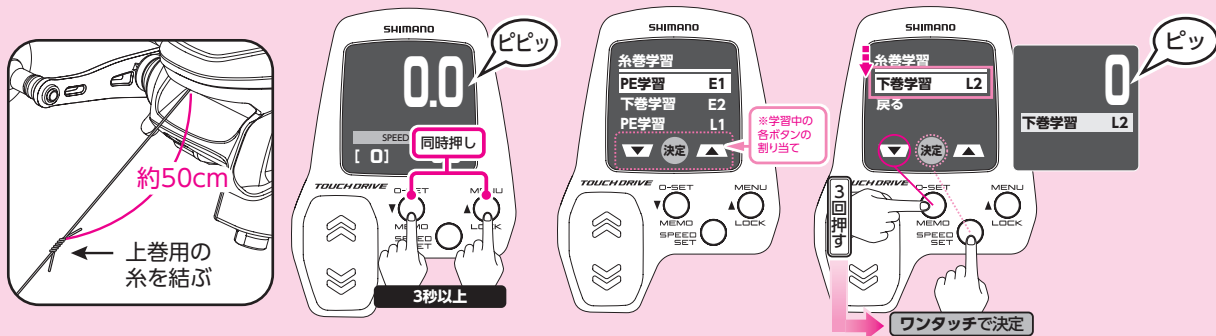


10 糸を正確に10m分引き出します。(糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカーの数で確認します。)
学習を終了するため、**SPEED SET**ボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

11 表示が水深画面に戻り、学習は完了です。
(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。
※その後釣りをされていて誤差が大きいのと思われる場合は、P80～82の「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

12 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

6 「下巻きを完了している場合 (ラインを巻き替える場合)」 かつ 「これから巻き取るラインの長さが正確に分からない場合」 下巻き学習 (L2)



1 巻き終えた下巻き糸に、上巻きの糸を結びます。

※下巻き糸に上巻きの糸を結ぶ際、下巻き糸をシベルウィンドの穴に通し、下巻き糸を約50cm糸を引き出して上巻きの糸を結んでください。

※デモモードONの時、糸巻学習モードに入ることができません。

下巻き糸を約50cm出した状態で、糸巻き学習を初めてください。

2 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット (P73~74参照) しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(水深画面の状態です。)
0-SET(0セット)ボタン、MENU(メニュー)ボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。

3 糸巻学習メニューが表示されます。
※学習中は各ボタンの機能が変更され、画面の下段に割り当てが表示されますのでご参照ください。
▼ボタンで「下巻学習 L2」を選択し、決定を押します。
表示が図のようになります。
(学習方法の選択について、詳しくはP46~47をご参照ください。)

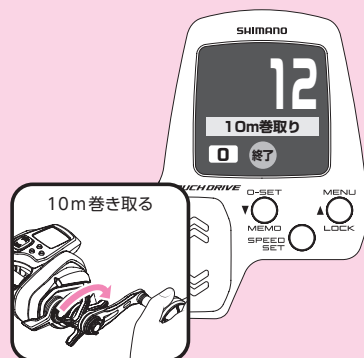
注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 4** 上図のようにハンドルで結び目まで巻き取ると、上図の画面になりますので、SPEED SET ボタンを3秒以上押してください。



- 5** 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。



- 6** 上巻き糸を正確に10m分巻き取ります。スプールの回転に応じて表示が変化します。

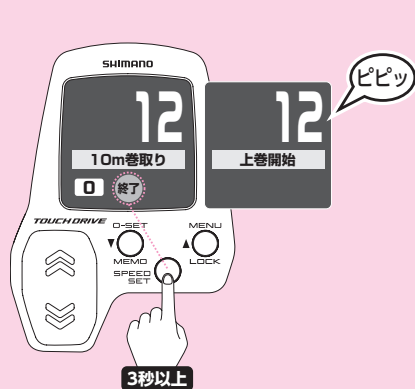
10m巻き取りのご注意

表示中の数字「10」=10mではありません。

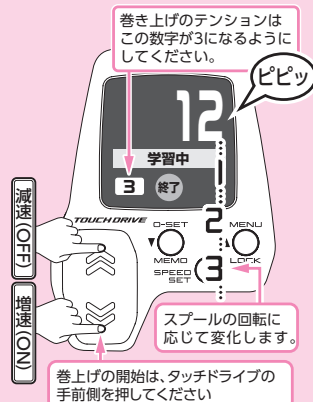
- ラインにマーカース表示がある場合は、マーカースを見て10mの計測が必要です。
- ラインにマーカース表示がない場合は、メジャーなどで10mの計測が必要です。

次ページにつづく ➡

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。



- 7** SPEED SETボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

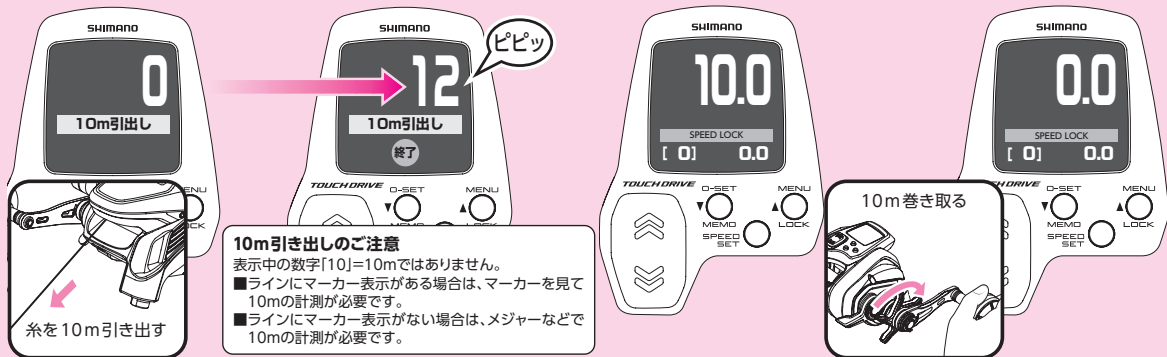


- 8** タッチドライブで糸を巻いてください。スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。速度はタッチドライブで調節できます。巻き上げの速度を上げたいときは、タッチドライブの手前側を押し続けてください。巻き上げを止めるときは、タッチドライブの奥側を押し続けてください。
※タッチドライブご使用時の巻き上げ速度は、中間速設定を有効にしています。(中間速につきましては、詳しくはP12, 24をご参照ください。)



- 9** 糸を完全に巻き終えたら、SPEED SETボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。



10 糸を正確に10m引き出します。(糸の10mごとの色の变化、もしくは1mごとのマーカの数で確認します。)
学習を終了するため、**SPEED SET**ボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

11 表示が水深画面に戻り、学習は完了です。
(カウンターの数値と実際の糸の出した長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。
※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、P80～82の「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な巻き取りができます。

12 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

学習方法 (使用するラインの実測値をリールに記憶させます)

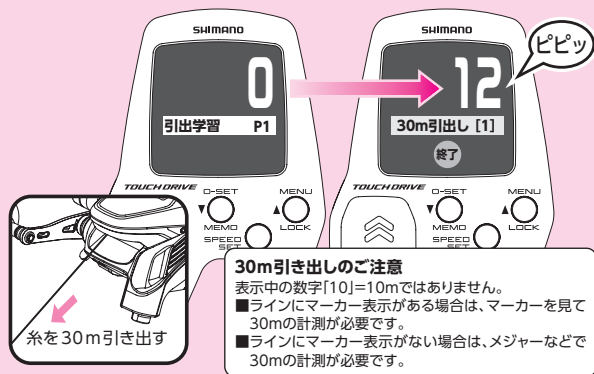
7 「引出学習をする場合」かつ「すでに糸巻きが完了している場合」 引き出し学習 (P1)



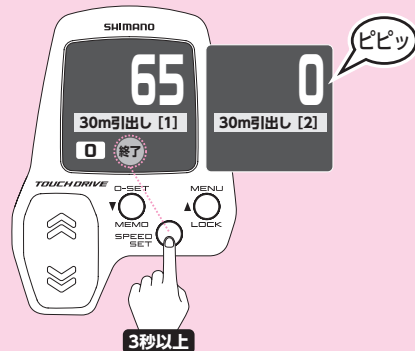
- 1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット (P73～74参照) しておきます。
電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(水深画面の状態です。)
O-SET (0セット) ボタン、MENU (メニュー) ボタンを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。
※デモモードONの時、糸巻学習モードに入ることができません。

- 2 糸巻学習メニューが表示されます。
※学習中は各ボタンの機能が変更され、画面の下端に割り当てが表示されますのでご確認ください。
▼ボタンで「引出学習P1」を選択し、決定を押します。
表示が図のようになります。
(学習方法の選択について、詳しくはP46～47をご参照ください。)

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。



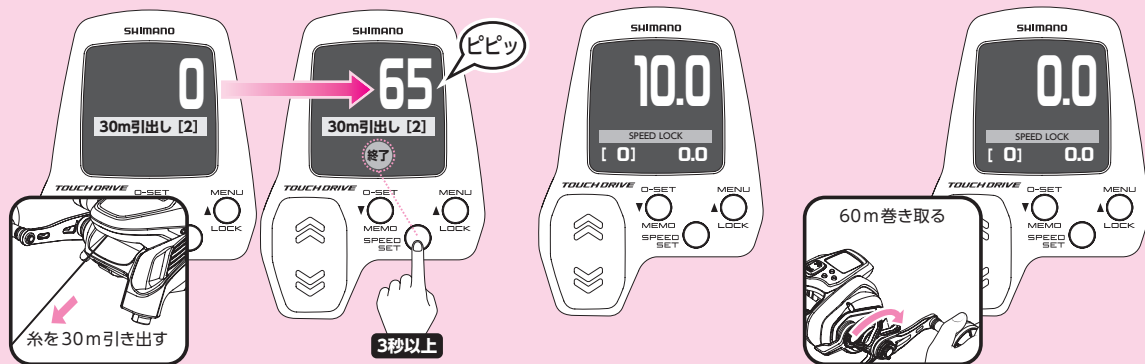
- 3** クラッチレバーをOFFにして、糸を正確に30m分引き出します。
(糸の10mごとの色の变化、もしくは1mごとのマーカの数で確認します。)



- 4** 30m分の引き出しが完了しましたら、終了MENU(メニュー)ボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。



- 5** さらに糸を正確に30m分引き出します。
(糸の10mごとの色の变化、もしくは1mごとのマーカー の数で確認します。)
30m分引き出し完了後、終了 MENU(メニュー)ボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

- 6** 表示が水深画面に戻り、学習は完了です。
(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±5%の誤差が生じる場合があります。)
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。
※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、P80～82の「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

- 7** 引き出した60m分の糸を巻き取ってください。

色々なテクニック (ここではテクニックの応用を紹介。釣果にダンゼン差をつけるなら必読!)



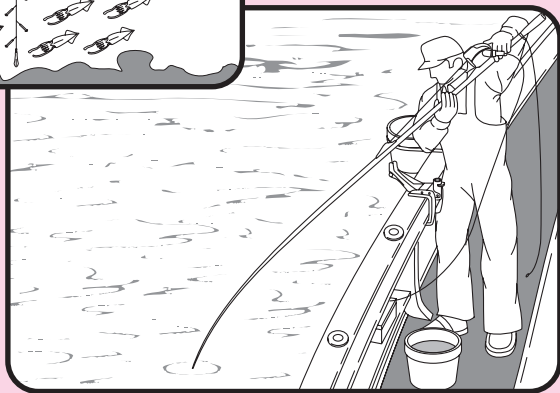
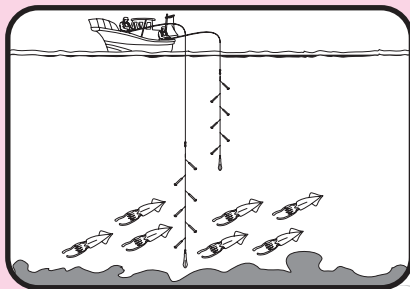
応用

シカケを速く落すテクニック。

- 一般的にはフォールレバーを締めて、スピールのフリー回転を少し重くし、船の上下動による糸のバックラッシュを防ぎます。
- しかし、より速くシカケを落とすためにはフォールレバーを締めずに、自分の指でスピールをサミングしてください。
- 竿先を下に向け、竿全体を立てることでガイドの抵抗を少なくすることができます。
(右図)

※クラッチをOFFにした際、モーターとスピールが連結していませんので、「糸送り機能」は搭載していません。

※モーターでの巻き上げ中にクラッチをOFFするとモーター回転が自動で停止します。



0(ゼロ)セットの設定(釣りを始める前に必ず行なってください)



正確な棚取りを実現するために。

釣果アップには、正確な棚取りが不可欠です。そこで「0セット」を設定します。

「0セット」とは、シカケが水面にある時を0mとして設定することです。

「0セット」によって、シカケの位置が水深を示すようになり、正確な棚取りを可能にします。

※糸を巻き込み過ぎた状態での0セットは、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。

※水深表示が10.1m以上で0セットをすると、高切れ補正となります。

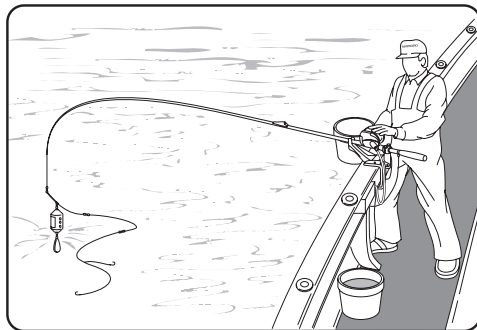
⚠️ ご注意！ — 仕掛けを竿の穂先に巻き込むことを防止するために —

大物などを強いテンションで巻き上げた直後は0セットを実施しないようにしてください。

大物を掛けた時などに糸が伸びたりつぶれたりすることで、スプールに巻かれた糸の外径に変化が生じ船べり停止位置がずれることがあります。

その時に、0セットを行うと次の投入で前回の巻き上げ時のテンションとの差が大きくなることでカウンター表示がずれ、仕掛けを竿の穂先に巻き込み穂先を破損する可能性があります。

電動リールの特性上、この現象を完全に防ぐことはできませんので0セットを実施する際はご注意ください。



シカケが水面にある時を0mとして設定します。

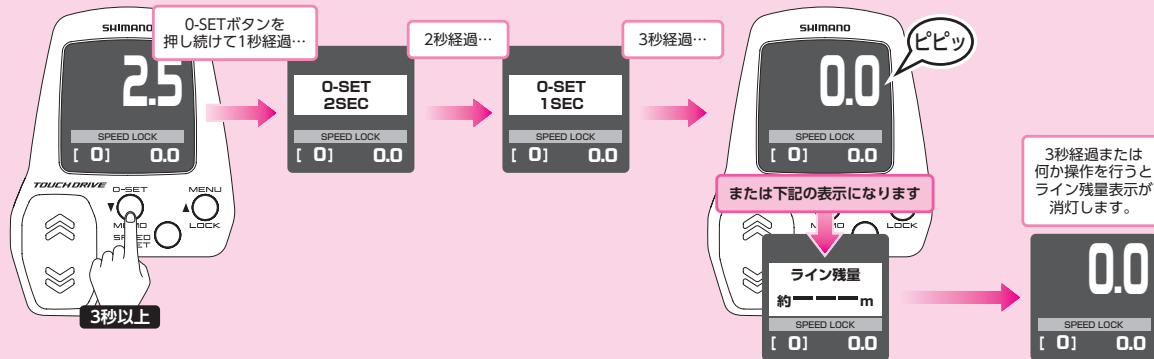
次ページにつづく ➡

0セットをしてみましょう。



ご注意！

糸を巻き込み過ぎた状態での0セットは、糸巻学習が
不正確になる原因となりますのでおやめください。



- 1 シカケを水面に合わせ、O-SET(0セット)ボタンを
3秒以上押してください。

- 2 「ピーッ」のアラームが鳴り、上図のように表示が変わります。
これで0セットは完了です。

ライン残量が表示される条件

糸巻学習後から補正された時にライン残量が表示されます。

※糸巻学習前は、「---」と表示することがあります。

※ライン残量を確認されたい場合は、リールデータより確認できます。(P39参照)

ライン残量表示のご注意

水深表示±10未満で0セットをされた場合は、糸巻学習は補正されないため
ライン残量は更新されません。

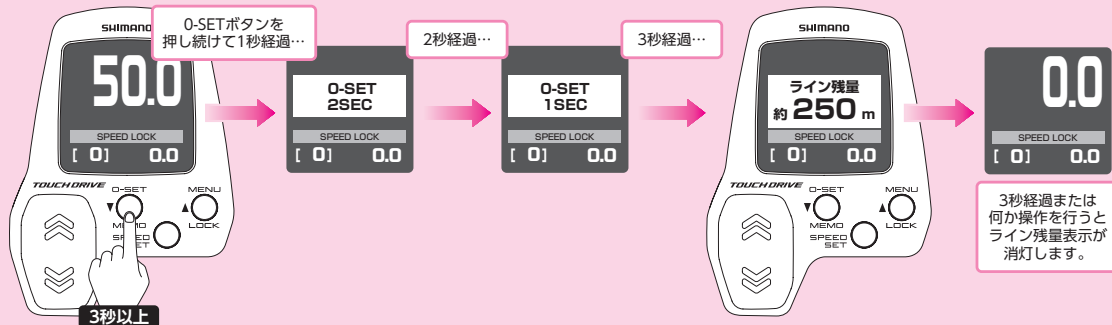
高切れの補正



高切れした場合も、簡単操作で補正が可能です。

※水深表示が 10.1m 以上で 0 セットをすると、高切れ補正となります。

⚠ 高切れをした場合、道糸を巻き込んでしまってから高切れ補正を行うと、糸巻学習が不正確になります。
道糸の巻き込みには十分ご注意ください。



- 1** シカケを水面に合わせ、O-SET (0セット) ボタンを3秒以上押してください。

- 2** 上図のように表示が変わります。これで、コンピュータが自動的に高切れした位置からの実測値表示にプログラムを変更します。

ライン残量が表示される条件

糸巻学習後から補正された時にライン残量が表示されます。

※ライン残量を確認されたい場合は、リールデータより確認できます。(P39参照)

ライン残量表示のご注意

水深表示±10未満で0セットをされた場合は、糸巻学習は補正されないためライン残量は更新されません。



シールドタイプ S A-RBでさらなるスプールフリーを実現!

従来のA-RB(アンチラストベアリング)の側面に防錆素材でシーリングし、塩分の浸入を減少させたシールドタイプ S A-RBを適材適所に配置したことにより、シカケ落下時のスプールフリーが更に軽くなりました。

それによってイカ釣りでのシカケ落下性能も飛躍的にUP。また、レベルワインド部分での糸ガラミを完全にシャットアウトする、セーフティーバーとレベルワインドのベストバランスを実現させました。

A-RB処理によるベアリングの防錆性はもちろん、ベアリング内部に浸入した塩分の結晶化による“塩噛み”をも減少させ、ソルトウォーターでの使用をさらに快適なものにしています。

 **A-RB**

船べり自動停止



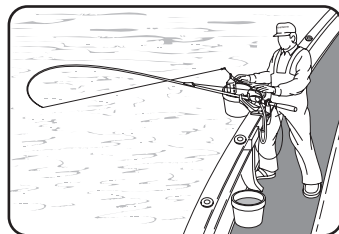
船べり自動停止位置を「自動設定」と「任意設定」の選択が可能です。

■「自動設定」の場合

電動巻き上げ停止後、竿を立てればシカケが手元にもどります。

船べり停止後、竿を立てたときにシカケが手元にくるように自動的に設定されます。

※電源を入れた初回投入時のみ6mで船べり停止します。
2回目以降は5秒以上止めていた位置を次回の船べり停止位置として、コンピュータが自動的に記憶します。
(この機能は1m～6mの範囲で作動します。水深表示が1.0m未満の時は、安全のため1mの設定になります。)

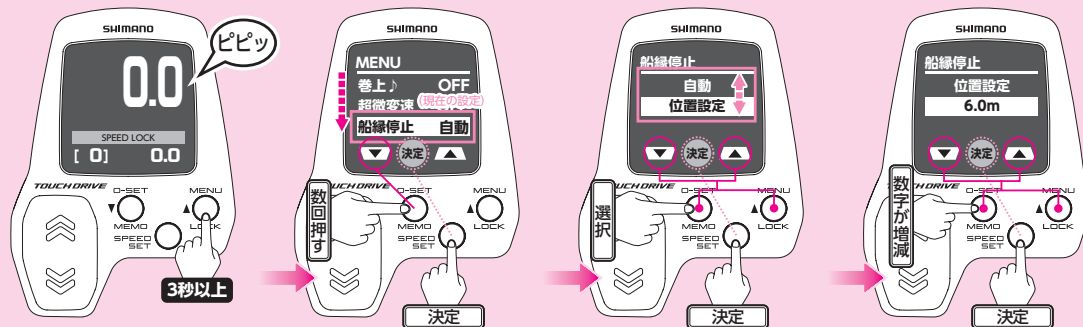


■「任意設定」の場合

1m～6mの範囲内で船べり停止位置を任意に選ぶことができます。(10cm単位)

※安全のため船べり停止位置は1m未満には設定できないようになっています。

船べり自動停止位置の「自動設定」と「任意設定」の切替えについて…



- 1** 出荷時は船べり自動停止位置は自動設定で起動します。
水深画面で MENU(メニュー) ボタンを3秒以上押すとメニュー画面が表示されます。

ご注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。

- 2** ▼ ボタン で数回押しで「船縁停止」を選択します。

機能名の右は現在の設定を表します。
(図の設定は例です。)

決定ボタンを押すと「船縁停止」のメニューが表示されます。

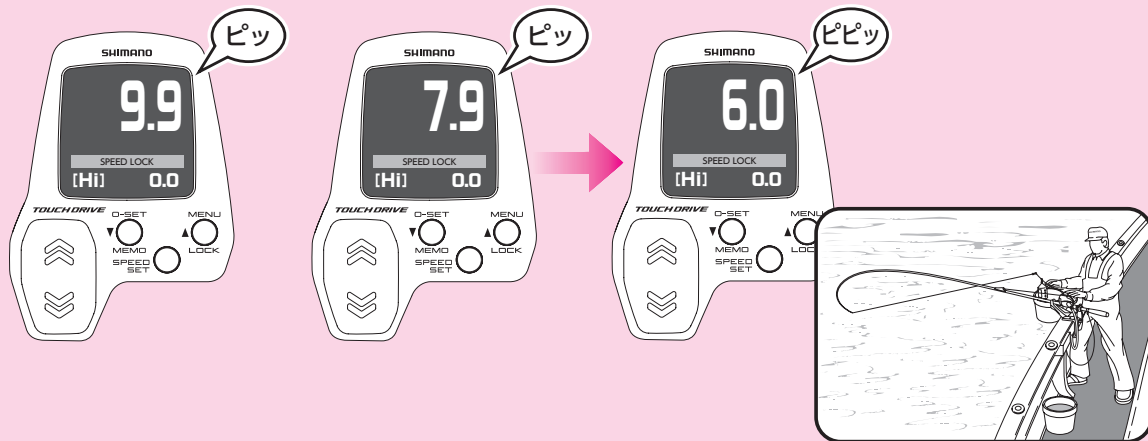
▲▼ ボタン で「位置設定」を選択し決定ボタンを押すと船べり自動停止位置の任意設定画面になります。

(メニュー画面の操作について、詳しくはP35～39をご参照ください。)

- 3** 数値を ▲▼ ボタン で増減してお好みの停止位置に設定し、決定ボタンを押してください。
※ 1m～6mの範囲で設定できます。
(10cm単位)

アラーム (船ベリ)

船ベリ自動停止位置の4m手前からアラームでお知らせします。

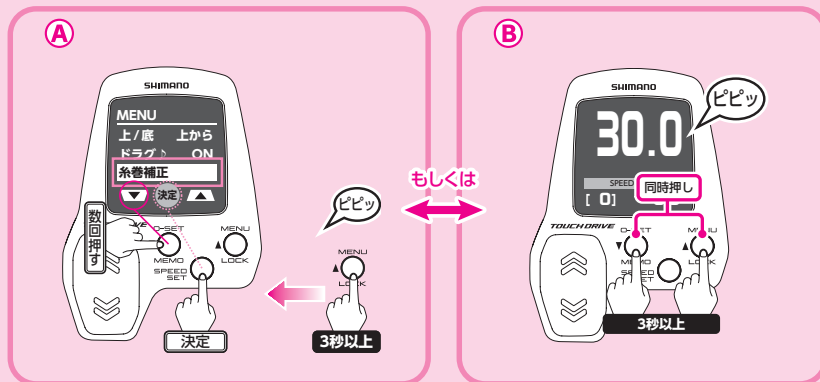
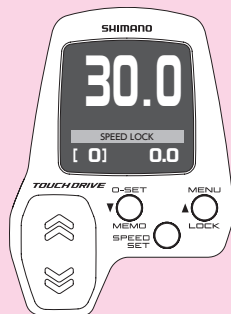


- 1** セットされている船ベリ自動停止位置の4m手前から、2mごとにアラームでお知らせします。図はHiで巻き上げた場合の表示です。

- 2** 船ベリ自動停止位置(この場合は6.0m)で「ビッ」のアラームが鳴り、自動的に巻き上げを停止します。船ベリ停止後、竿を立てるだけで手元にシカケがくるので、すばやく上図のようにとりこむことができます。



カウンターの水深と実際のラインマーカのずれを補正することでより正確な棚取りを行えます。



- 1** カウント値が10m以上の時に有効です。
現在の水深表示を切りのいい数値(少数以下を0)に合わせてください。
少数以下を0にしますとラインマーカで合わせるができます。ラインの色が変わる前後(10m単位)がより分かり易くなります。
※100mを超える場合、例えば表示が199から200に変わった所で合わせて頂くと、より正確な補正となります。

- 2** A・Bいずれかの操作で糸巻学習補正に入ってください。
2通りの操作方法があります。いずれの操作からも同様に補正を行うことができます。

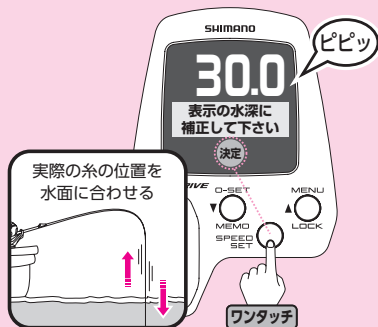
① メニュー画面からの操作

MENU(メニュー)ボタンを3秒以上押し、メニュー画面が表示されます。
▼ボタンを数回押して「糸巻補正」を選択し、決定ボタンを押してください。
(メニューの操作の詳細はP35～39参照)

② ボタンによる操作

MENU(メニュー)ボタン、0-SET(0セット)ボタンを両方同時に3秒以上押しと糸巻学習補正に入ります。
「ビビッ」のアラームが鳴ります。
※この方法で行った場合、補正完了後は水深画面に戻ります。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。



3 ここで、実際の糸の位置 (例図の場合ですと30m) を水面に合わせてください。

※この時、糸を出し入れしても表示は変わりません。
※ただし、モーターの作動 (補正中の巻き上げ、魚が掛かった場合等) はキャンセルとなります。中断した場合は前回の補正値が使用されます。

決定ボタンを押して補正を確定してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

①



① のメニュー画面からの操作の場合

メニュー画面に戻り、補正が完了します。
メニューの「水深画面へ」を決定して水深画面へ戻ると、補正後の水深が表示されます。

補正を確定されますと電源をOFFされましても、糸巻学習は補正されたまま記憶されます。

ライン残量が表示される条件

糸巻学習後から補正された時にライン残量が表示されます。

※ライン残量を確認されたい場合は、リールデータより確認できます。(P39参照)

②



② のボタン操作からの場合

水深画面に戻り、補正が完了します。
現在の水深画面に補正後の水深が表示されます。

次ページにつづく

1

あ!

カウンターと道糸の
マーカーがずれている!!

100m

海

103

SPEED LOCK

[0]

0.0

2

その時は

糸巻学習補正

があるよ!

どうするの?

MENU(メニュー)
ボタン3秒以上押しで
メニュー画面へ

3秒以上

メニューから
「糸巻補正」を
選択して決定します。

※もしくは水深画面の状態から...

MENU(メニュー)ボタンとO-SET(0セット)ボタンの
両方同時3秒以上押しでも糸巻学習補正に入ることができます。

同時3秒以上

3

水深が表示されたけど
糸を出し入れしても
動かないよ!

103

表示の水深に
補正して下さい

決定

4

そう、その時に

カウンター表示と道糸のマーカーが
同じになる様に道糸を出し入れし、

103m

決定ボタン押せば
OK! 次からバッチリ!

ワンタッチ

棚または底の水深をメモリーする方法



水深をメモリーするには…



シカケをメモリーしたい水深に合わせ、MEMO（メモ）ボタンを押します。
メモリーした水深がメモ欄に表示されます。（ 部分）
上図の場合ですと 50.0m の水深がメモリーされます。（上からモード選択時）

※このセットは何回でも入れ換えが可能です。

棚アラーム

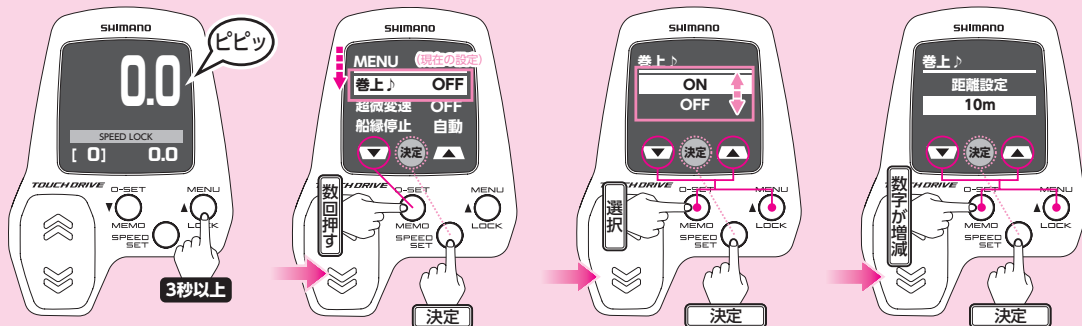
メモリーした水深の4m手前から「棚アラーム」でお知らせします。



- 1** シカケをおろす方向のみ、セットされているメモ水深の4m手前から、2mごとにアラームでお知らせします。
- 2** メモ水深(この場合は50.0m)で「ピピッ」のアラームが鳴ります。1回の上げ下ろしにつきアラームは1回のみです。いったん6.0m未満まで巻き上げたり、0セットを行ったりした場合、再度アラームがメモ水深をお知らせします。

巻上距離アラーム

「クラッチON」もしくは「巻き始めた」ところから、
設定した距離を巻き上げるとアラーム音でお知らせします。



- 1** 出荷時は巻上距離アラームOFFで起動します。
水深画面で MENU(メニュー) ボタンを3秒以上
押すとメニュー画面が表示されます。

ご注意：液晶画面内の設定・数値は例として
表示しています。実際と同じ設定・数値を示す
わけではありません。

- 2** ▼ボタンで数回押して「巻上」を選択し
ます。

機能名の右は現在の設定を表します。
(図の設定は例です。)

決定ボタンを押すと「巻上」のメニューが表示
されます。

▲▼ボタンで「ON」を選択し決定ボタンを
押すと巻上距離アラームの距離設定画面にな
ります。

(メニュー画面の操作について、詳しくはP35
～39をご参照ください。)

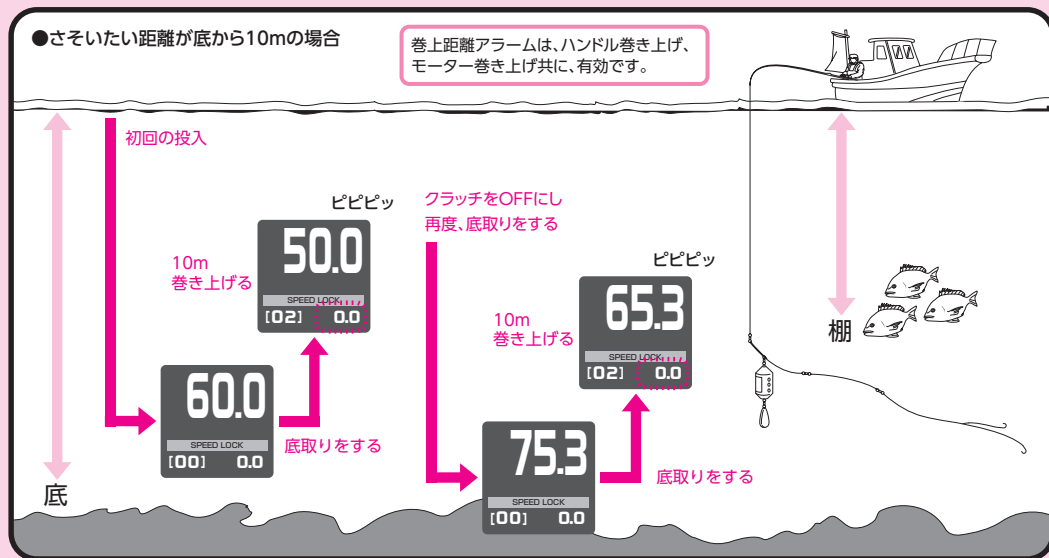
- 3** 数値を▲▼ボタンで増減してお好みの距離
に設定し、決定ボタンを押してください。

※1～50mの範囲で設定できます。
(1m単位)

ご注意：一度アラームが鳴り、クラッチをOFF
にせず、さらに巻き上げてもアラームは鳴りま
せん。再びクラッチをOFFからONにし、設定し
た距離を巻き上げるとアラームで通知します。

次ページにつづく ➡

巻上距離アラームの実釣編



1 底取りを行います。

2 着底した水深から10m巻き上げるとアラーム(ビビビ)で通知します。
※クラッチをOFFにせず、さらに10m巻き上げてもアラームは鳴りません。

3 再度、底取りを行い、着底した水深から10m巻き上げると再度、アラーム(ビビビ)で通知します。

中層でさそいたい距離(幅)が決まっている時にも有効な機能です

2通りの棚の取り方・上からモードと底からモード



棚取りに便利な「上からモード」と「底からモード」。

船釣りで釣果を上げるコツは、いかに正確に魚のいる水深(すなわち棚)にシカケを降ろすかということです。

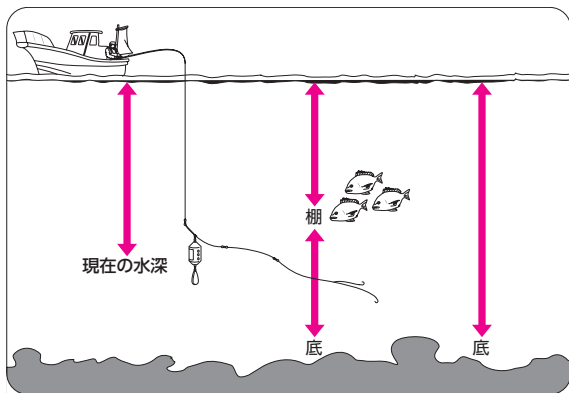
最近は高性能の魚群探知機により、魚のいる水深が正確にわかります。

通常、船長がこの棚を教えてください。この場合釣場、釣り方、対象魚などによって水面から棚が指示される場合と、海底す

なわち底から棚が指示される場合の二通りがあります。

本製品は底からの水深を確認したい場合、メモ水深の表示方法を切り替えられます。

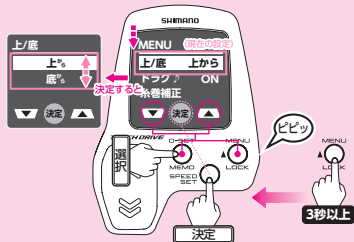
その日の釣りに合わせて、切り替えてご使用ください。



モードを切り替えるには…

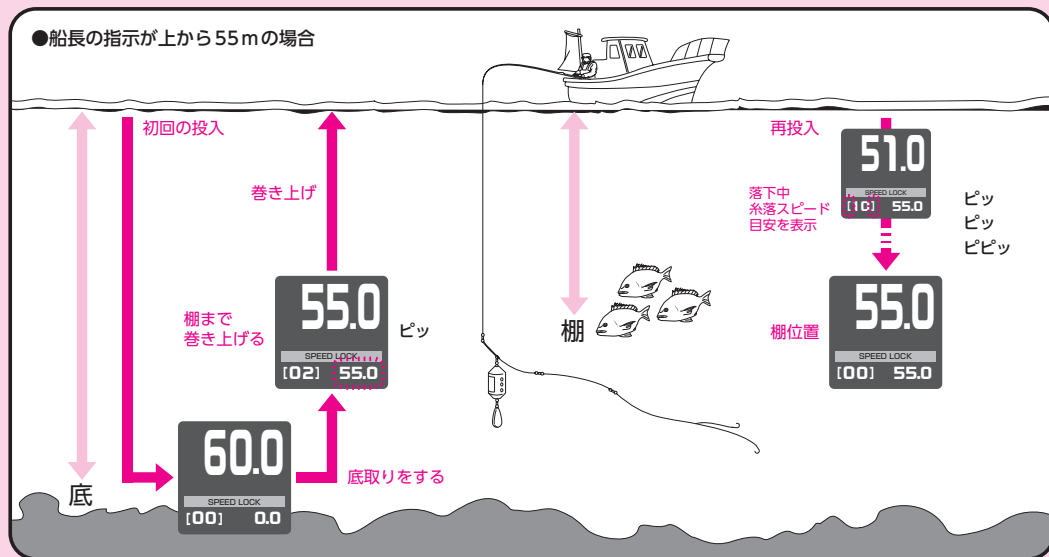
1. 水深画面で MENU(メニュー) ボタン を3秒以上押しとメニュー画面が表示されます。
2. ▼ ボタン を数回押して「上/底」を選択します。
機能名の右は現在の設定を表します。
(図の設定は例です。)
決定ボタンを押すと「上/底」のメニューが表示されます。
3. ▲▼ ボタン で上からまたは「底から」を選択し、決定ボタンを押してください。

メニュー画面の操作について、詳しくはP35～39をご参照ください。



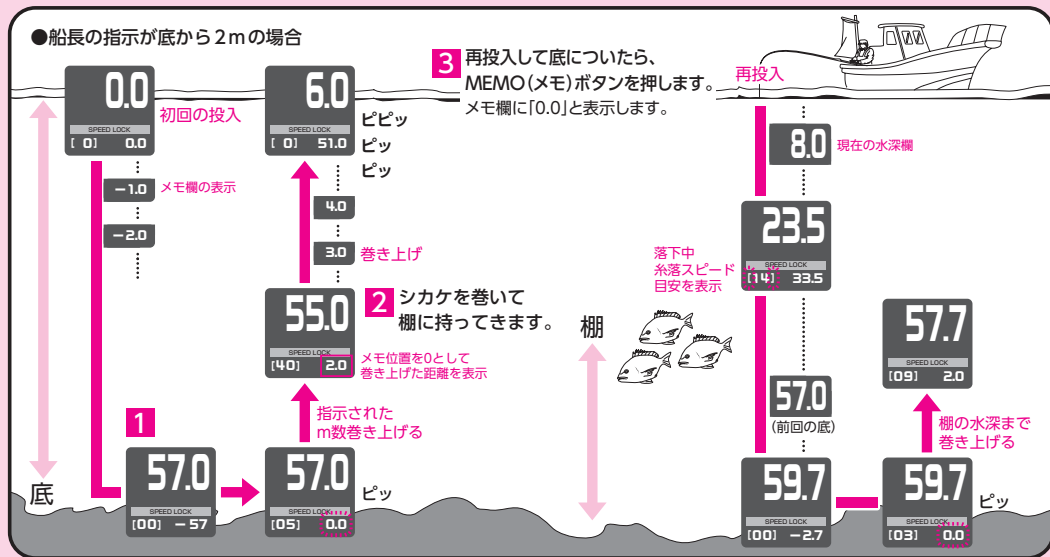
次ページにつづく ➡

上からモードの実釣編



- 1 シカケをいったん底につけます。
- 2 シカケを巻いて棚に持ってきます。
MEMO(メモ) ボタンを押して棚をメモリーします。
以上は底取りをして底の水深を知りたい場合ですが、直接指示の水深にシカケを投入しメモボタンで棚をメモリーすることも可能です。
- 3 再度投入した際、メモリーした水深にシカケをおろします。

底からモードの実釣編



- 1** シカケが底についたら、MEMO(メモ)ボタンを押します。メモ欄に「0.0」と表示します。リールを巻き上げるとプラスにカウントし、底からの水深が確認できます。

解説！：船長の指示が「底から何m」といった場合、釣り人はシカケをいったん底まで降ろして指示されたm数だけシカケを上げます。(通常この時にコマセを振ります。)

モーター&クラッチ連動機能

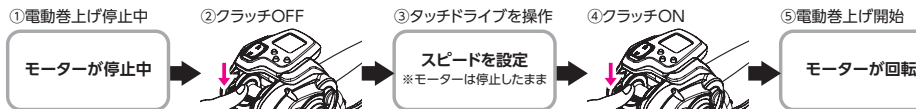
モーター&クラッチ連動機能とは電動巻上げ(モーター回転)中にクラッチをOFFにすると、クラッチに連動してモーター回転が一旦止まり、再度クラッチをONにすると電動巻上げ(モーター回転)を自動で再開する機能です。

【モーター&クラッチ連動機能の操作方法】

1. モーター停止中にクラッチをOFFにした時

水深6.1m以上でタッチドライブを動かすと、巻上速度(1~Hi)を設定できます。クラッチをONにすると、設定した巻上速度(モーター回転)で電動巻上げを開始します。クラッチをON(モーター回転)/OFF(モーター停止)の操作が繰り返し行えます。
※水深6.0m未満まで巻き上げると、繰返しの操作がリセットされます。

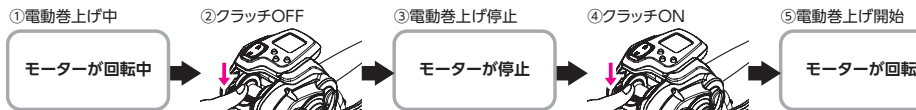
【操作】



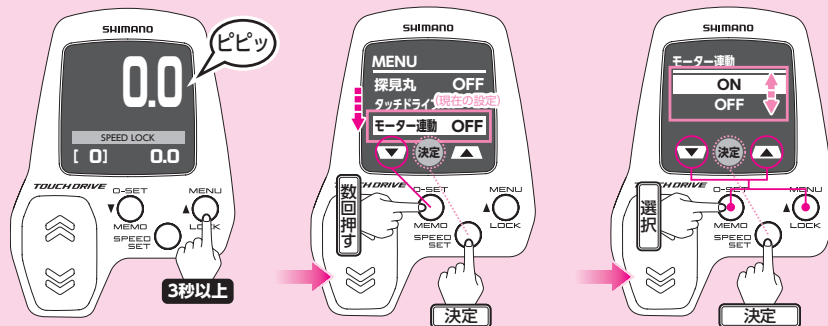
2. モーター回転中にクラッチをOFFにした時

水深6.1m以上でタッチドライブを動かすと、巻上速度(1~Hi)を設定できます。設定した巻上速度(モーター回転)で電動巻上げを行います。クラッチをOFFにすると、電動巻上げが停止します。(モーター停止)クラッチをON(モーター回転)/OFF(モーター停止)の操作が繰り返し行えます。
※水深6.0m未満まで巻き上げると、繰返しの操作がリセットされます。

【操作】



モーター&クラッチ連動機能のON/OFFの切替えは下記の操作で可能です。



- 1** 出荷時はモーター&クラッチ連動機能OFFで起動します。
水深画面で **MENU** (メニュー) ボタンを3秒以上押すとメニュー画面が表示されます。

ご注意： 液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。

- 2** ▼ ボタン で数回押して「モーター連動」を選択します。
機能名の右は現在の設定を表します。
(図の設定は例です。)
決定ボタンを押すと「モーター連動」のメニューが表示されます。
▲▼ ボタン で「ON」または「OFF」を選択し、決定ボタンを押すと設定完了です。
(メニュー画面の操作について、詳しくはP35～39をご参照ください。)

モーター&クラッチ連動機能のご注意

⚠ 警告

モーター&クラッチ連動機能作動中、ハンドルリターンなど意図せず、クラッチをONにした際に、スプールに指を巻き込んだり、指に糸が絡む恐れがあります。直ちにタッチドライブを操作してモーターを停止してください。

⚠ 注意

竿先に糸が絡んだ状態や、バックラッシュした状態でクラッチをONにしないでください。破損の原因になります。

探見丸システム接続時の機能一覧

本製品の電動リールを探見丸子機に接続された場合、探見丸子機で下記の機能が使用可能になります。

①②④⑤⑥⑦を除き、下図□囲みの機能がご使用いただけるようになります。探見丸メニュー画面、各機能の詳しい操作方法などは探見丸取扱説明書をご覧ください。

対応電動リールの機種、使用される探見丸の機種により使用可能になる機能は異なります。画面図は例として表記しています。実際とは異なりますのでご了承ください。

探見丸のリール設定画面



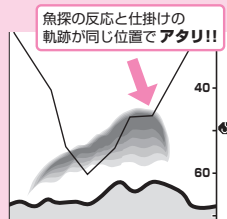
※20探見丸CV-FISHの画面を参考にしています。

③[上底切替]...

電動リール水深表示の[上から](水面から)・[底から]を探見丸から設定できます。

⑧[仕掛軌跡]...

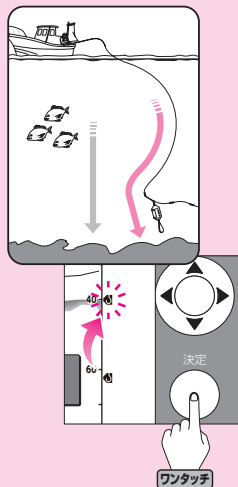
シカケの軌跡を表示します。どの時点でアタリがあったかなど簡単に把握でき、さそいの目安やコマセタイミング、次回投入時の参考などに便利です。



⑨[位置補正]…

シカケの水深と魚探画面上の位置を簡易的に同調することができます。従来のカウンター付リールが表示する水深は、あくまで巻かれていた糸の放出量であり潮の流れなどで表示水深とシカケの位置にはズレが生じていました。(右図)探見丸システムではワンタッチでズレを補正。以後、魚探画面上のシカケマークが実際の位置を表示してくれます。

※電動リールからは位置補正できません。探見丸システムのみ操作できます。



⑩[仕掛回収]…

[ON]にすると電動で巻き上げ回収時、仕掛が船縁まで回収される残り時間を魚探画面に表示します。

⑪[水深並列表示]…

リールの水深と海底の水深を並列に表示します。未然の根掛かり防止に大きく貢献します。

⑫[ファイト時間表示]…

電動で巻き始めた時から、船縁停止までにかかった時間を表示します。

⑬[リールデータ]…

電動リールのデータ(巻上距離・使用時間)の確認ができます。

お取り扱い上の注意

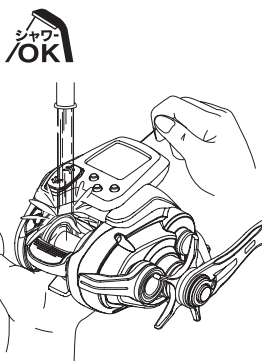
本製品は精密部品で構成されていますので、下記注意事項を守ってお取り扱いください。また、釣行後の手入れを十分行ない、末永くご使用ください。

1 リールのお手入れ方法

※お手入れの際には必ずケーブルを抜きコネクターキャップを閉めて、リールを完全に冷ましてから行ってください。まずドラグをしっかり締め込んでください。水道水をリールにかけながら、リール外側の汚れをスポンジで落とします。
洗浄の方法を動画でご紹介しています。
↓こちらをご確認ください



※水中に浸けて洗わないでください。
スプールと本体の間に水道水をかけながらクラッチを切って道糸を2～3m出します(図参照)これによりスプール軸受け部に付着した塩分を洗い流せます。
ドラグを目一杯ゆるめ、影干ししてよく乾燥させてください。
※ケーブルのワニ口部分には海水中の不純物が付着している場合がありますので、必ず水道水で洗い流すか軽くブラッシングしてください。



※ベアリングの塩害について

S A-RB (シールド耐塩水ベアリング) はベアリング本体、シールドともに錆びにくい物になっています。しかしシールドはベアリング内部に塩水が浸入して発生する『塩害』を完全に防ぐものではありません。ベアリング内部に塩水が浸入して乾燥すると、塩害を起す場合があります。錆びている訳ではありませんが、音なり、ゴロ付き等の症状が出る場合があります。解消するためには、程度にもよりますが、S A-RB を取り出して水道水で洗い流して塩抜きするか、または、S A-RB ごと交換する必要があります。メンテナンスをお受けいただくことをお勧めします。

※保管の際は必ずリールからケーブルを外して保管してください。

2 リールのお手入れ方法 (スプール回転性能に低下が見受けられた場合)

●通常のお手入れ方法にて、スプール回転がスムーズでないと感じられた場合(リールのハンドル側ベアリングの塩カミによる場合)
※ケーブルを必ず抜いた状態で行ってください。

1. リールのハンドル側のスプールと本体の間までリールを浸水させて(右図参照・リール全体を浸水させないでください。)スプールを回転させますと、ベアリングに噛み込んでいた塩が抜けて回転性能がUPします。
2. リールを水から引き上げてリールのコネクター側を下にして、水を排水してください。
(リール内部に溜まった水を完全に排水させます。)



上記を行っても改善が見られない場合はオーバーホールに出してください。

3 ご使用上の注意

- 電動リールの構造上、モーターがONで、糸が巻き込めない状態（糸が掛かりドラッグがすべてになっている状態）になることがあります。これは車に例えるならサイドブレーキを掛けたまま走ることと同じです。電動リールもこの状態を長く続けると、ドラッグ部分のオイル焼け→ドラッグ焼け→本体の破損へとつながります。くれぐれもご注意の上でご使用ください。
- 根掛かりした時には、竿やリールで無理にあおらないで、できるだけ釣場に糸が残らないように引き寄せて切ってください。
- リールはていねいに扱ってください。移動時、特に放り投げやバッグ内で他の道具との接触による破損には十分ご注意ください。
- リールは落としたり衝撃を与えないよう、丁寧に扱ってください。
- 船の竿立てに収められる時は、リール後部及びケーブルに衝撃を与えないよう、また、ケーブルを折り曲げないようにご注意ください。特にケーブルをリールと船べりの間にはさまないようにご注意ください。
- 偏光ガラスの種類によってカウンターの液晶画面が見にくくなる場合があります。
- 高負荷巻き上げ後に仕掛け投入して巻き上げる時は注意してください。仕掛けを穂先に巻き込む可能性があります。
- 樹脂脚を採用しているリールにおきましては、金属製リールシートでご使用されますと傷が入り、最終的に破損に至る場合がございます。パイプシート内部にリール脚保護用樹脂が装着されているかどうかご確認の上、ご使用ください。

- スーパーフリースプールを採用しているリールにおきましては、モーターがONになっている状態でクラッチをONにしますと、クラッチの故障の原因になります。必ずモーターがOFFになっていることをご確認の上、クラッチをONにしてください。
- スーパーフリースプールを採用しているリールにおきましては、クラッチをOFFにして糸を出す時は、レベルワインドは連動しません。ドラッグが滑っている時は、レベルワインドがスプールと同期しない場合があります。
- 静電気により一時的に液晶の表示しない部分ににじみ現象が発生することがありますが、機能に影響はありません。
- 本製品は、一部の08探見丸CVと通信できない場合があります。シリアルナンバー「200804～201010」が対象になります。お手元の08探見丸CVの裏側のシールに記載しております。ご確認の上、ご使用ください。



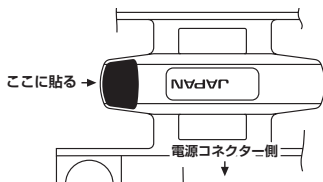
- メモリーバックアップ（カウンター情報の保存）機能について、1度電源を10分以上つなぐとメモリーバックアップ機能が働きます（目安時間30分※）。使用中、電源との接続が切れた場合、表示は消えますが、電源との再接続時には表示が消える直前の水深表示に戻ります。※常温（20～25℃）においての目安時間。常温以外では記録保持時間は短くなる場合があります。

次ページにつづく

●「脚調整シート」のご使用方法

ご使用になるロッドのリールシートの形状によりましては、リールがしっかりと固定されずガタが出る場合があります。このような場合、同梱の「脚調整シート」をご利用ください。

1. リールの脚裏に挿絵の様に片側だけ（リールシートのネジフードに入り込む側）に貼っていただき、ガタが止まったかどうか確認してください。



2. 1を行ってもガタが止まらない場合は、もう片方の脚裏にもシートを貼ってください。その際、リールシートとの掛かり代が十分であるかご確認ください。3mm以上リールシート内に入り込んでいればOKです。

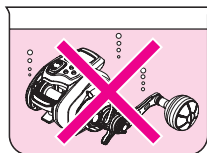
3. 2の様に両方に貼ってもガタが止まらない場合は、規格外となりますのでご使用をお止めください。

※ご注意

リール脚裏の両方に貼ってしまうと、リールシートとの掛かり代が少なくなり、最悪の場合、リールが外れてしまう場合があります。

4 お手入れの方法

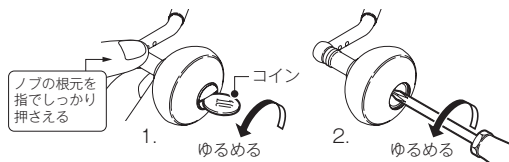
- 定期メンテナンス - 弊社サービスへご依頼ください。
リールの状態は、使用頻度のみならず、使用環境、使用方法、対象魚等によって大きく変わります。回転時の異音、違和感を感じられたら、お買い上げの販売店を通じて弊社サービスへお預けください。
- 定期メンテナンスとして、半年に1度はお預けいただくことをおすすめいたします。
- 保管の際は必ずリールからケーブルを外して保管してください。
- リールを使用にならない時はコネクターキャップをしてください。
- リールは絶対に分解しないでください。内部にはモーター、プレーカーなどの電気部品が入っていますので故障の原因となります。
- ドラグ部分には絶対オイルを付けしないでください。オイルが入るとドラグ力が低下することがあります。
- 高温、高湿の状態で長時間放置されますと、変形や強度劣化の恐れがあります。長期保存される場合は、前記の手入れを実施後、風通しの良い場所で保存してください。
- リール本体、特にカウンターユニット部は、水没させないでください。



● ハンドルノブの取り外し方

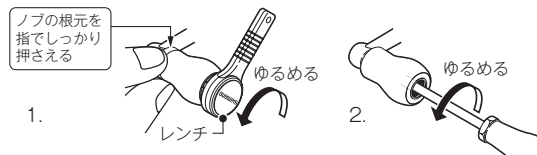
■ 300

1. ノブを手で押さえながら、コインでハンドルノブキャップをゆるめて取り外します。
2. ノブ内部のネジをゆるめて外します。



■ 300DH

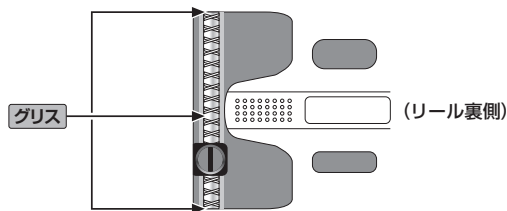
1. ハンドルノブの根元を指で押さえながら付属の専用レンチでハンドルノブキャップをゆるめて取り外します。
2. ノブ内部のネジをゆるめて外します。



- お手持ちのリールを末永くご愛用いただけるよう、シマノリール専用グリス（下記）を使用してください。
指定の箇所に付けていただくをお願いします。

シマノ純正リールグリススプレー（SP-023A）

ウォームシャフトとウォームシャフト両側



5 セーフティ機能

●自動復帰ブレーカー

電動リールに過負荷がかかった場合、リールを保護するため最大2秒間モーターを停止し自動復帰しますが、異常ではありません。その状態を続けますと最終的には自動復帰ブレーカーが作動します。作動中は「ブレーカー」の文字が点滅します。（魚探表示ONの場合は、「**BRK**」マークが点滅します。）

作動した際は、モーター保護のためモーターを動作させずに5分以上休ませてください。（この際、ハンドルで糸を巻いたり、クラッチを切って糸を出したりしても糸巻学習は保持され、カウンターは正常に働きます。）「ピピッ」のアラームが鳴り「ブレーカー」の表示が消えればブレーカーは復帰です。

ご注意:

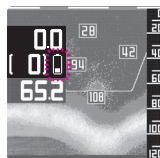
- ブレーカーが作動している間は、電源をOFFにした場合でも復帰されません。
- ブレーカーが作動する種類により、ブレーカー解除までに30秒～3分程度の時間がかかります。



【魚探表示:ON】

●バッテリー検出表示

バッテリー電圧が10.5V以下になった場合、またはケーブル・コネクターの接続不良がおこると、バッテリーマークが点滅します。バッテリーマークが点滅しましたら、ケーブル・コネクターの接続不良がないかをお確かめください。接続不良ではない場合、バッテリー残量が少ないことが考えられます。



【魚探表示 :ON】

●電圧が高すぎる場合

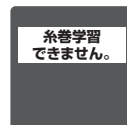
DC24V以上の電圧がかかった場合に表示されます。ご使用の電源が12V～16.8V仕様かどうかお確かめください。



【魚探表示 :ON】

●糸巻学習操作が不正確な場合

糸巻学習操作が不正確な場合の表示です。お手数ですが、再度学習をおこなってください。



実用巻上持久力

3.0kg

長時間耐久維持
できる巻き上げ力

実用巻上持久力とは負荷を
どんどん増やしていった際に、
最終的に電動リールのプレー
カーが作動したときの負荷を
表示したものです。

最大巻上速度

215m/分

無負荷時の巻き上げ速度の
値です。

最大ドラグ力

5.0kg

シマノの船リールで表示して
いる最大ドラグ力は、人間が
片手で締め込める力を30kg・
cmとし、そのときのドラグ力
を最大ドラグ力と表現してい
ます。

実用巻上速度

1kg (負荷)

137m/分

2kg (負荷)

129m/分

水深100mのシカケ回収に要する時間

実用巻上速度とは、たとえば300番のリールならPE1.5
号糸を200m巻いた上で100m引き出し、指定の負荷を
掛けてMAXで巻き上げます。

その時にかかった時間を速度に変換した値です。

測定条件:○電源は13V○常温15~20℃(リチウム等高電圧の
電源を使用されますと、さらにハイスピードになります。)

※データは使用環境条件等で若干変動する場合があります。

品番	ギア比	自重 (g)	糸巻量(号-m) PE	最大巻上長 (cm/ハンドル1回転)	ハンドル長 (mm)	ベアリング数 (ボール/ローラー)
300	7.4	405	0.8-400 1-300 1.5-200 2-150 0.8-200※2 1-200※1	65	65	9/2
300DH	7.4	400	0.8-400 1-300 1.5-200 2-150 0.8-200※2 1-200※1	65	60	9/2

※1: スプールのライン部(内側ライン)まで下巻きをした場合の糸巻量です。

※2: スプールのライン部(外側ライン)までラインを巻いた場合の糸巻量です。

●電源(直流)

DC12V(リチウムイオンバッテリー可)

●ご注意

本製品はPEライン専用です。PE0.8号未満を使用される場合は糸を巻きすぎた
り、バックラッシュ等をするすと糸が細いため、スプールとフレームのすき間に
入り込んでしまう場合がありますので注意してください。

●糸巻量は参考値です。糸巻時のラインテンションや糸の直径な
ど、様々な要因によって、実際に巻ける量が前後する可能性が
あります。糸巻時の推奨ラインテンションは、二次元コードから
ご確認ください。



この製品について取得又は適合性確認済みの技術認証(EMC認証)	なし
Technical certification (EMC certification) obtained or conformance verified for this product	none
이 제품에 대해서 취득, 또는 적합성 확인 완료 기술인증(EMC인증)	없음
Certificaciones técnicas (de CEM) obtenidas o con las cuales se ha confirmado que cumple este producto	ninguno
Certificazione tecnica (certificazione EMC) ottenuta o compatibilità verificata per questo prodotto	nessuno
Teknisk certifiering (EMC-certifiering) gällande anskaffning och kompatibilitetsverifiering för denna produkt	ingen
本产品已获得或已确认了符合性的技术认证 (EMC认证)	没有任何
Certifications techniques (certifications CEM) obtenues ou conformité vérifiée pour ce produit	aucun
Certificação técnica (certificação EMC) obtida ou que foi confirmada a conformidade para este produto	nenhum
Für dieses Produkt erhaltene technische Zertifizierung (EMV-Zertifizierung) oder überprüfte Konformität	keiner
Получено техническое свидетельство (сертификат ЭМС) или подтверждено соответствие для данного прибора	никто

故障かな?と思われたときは

こんなとき	操作	参照
液晶が真っ黒、及び全文字が現れる。	高温度の雰囲気（車のトランクの中等）にさらされた時に生じる場合がありますが、温度が下がるにしたがって正常にもどります。	
液晶が表示しない。	バッテリーとケーブルの（+）（-）とが正しく接続されているかをお確かめください。 バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。 ケーブルのワニ口部分に不純物が付着していないかご確認ください。	P45
液晶が表示しない。（極寒で使用の場合）	液晶の特性上-15℃以下で放置されますと、電源をつないでもしばらくの間表示しません。 （電源がONの状態になり、カウンター内部の基板が温まれば表示されます。） 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうかカバーを付け、保護することをおすすめします。	
糸巻学習がセットされない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P48～70
ラインを送り出してもカウントしない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P48～70
誤差が大きい。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P48～70
カウンター表示と、糸の水深色分けとが一致しない。	糸の種類により、程度の差はありますが、使用中に糸が伸びることによりカウンターの表示との間にズレを生じる場合があります。	
船べり停止位置が違う。	巻き上げのテンションや糸の伸びの影響とされます。水面での0セットを行なってください。 また、入力可能な船べりセットは、1m～6m未満の範囲です。 1m未満のセットは安全のため1mに設定しています。	P73～74
液晶表示はするがモーターが作動しない。	バッテリーの容量が十分かどうかご確認ください。 ※モーターが低速では作動するが、高速では作動しない場合もバッテリーの容量不足が考えられます。バッテリーを充電のうえ、ご確認ください。なお、充電しても正常に作動しない時は、バッテリー寿命が考えられますので、新しいバッテリーと交換し、再度ご確認ください。 リールが低温（0℃以下）になりますと、モーターが作動しなくなる場合があります。 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうか、電源ONしておいてください。 また、カウンター1m以内では安全のためモーターは作動しません。	P45

こんなとき	操作	参照
巻き上げ中にモーターが停止する。	電源コネクターのネジがしっかりと締め付けられているかご確認ください。船電源の端子や、リールやケーブルのコネクタ部分や、ケーブルのフニ口のサビと塩の結晶の付着による通電不具合が生じることがあります。サビや塩の結晶を落としてからもう一度ご確認ください。また、バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。	P45
電動リールから、巻いていないのに変な音がする。	不安定な電源から電動リールを守る為に、デジタルカウンター内部にコンデンサーを入れています。ご使用されています電源が不安定な状況下（ノイズ等や電圧降下）では、このコンデンサーが振動し音が聞こえる場合がありますが、リール機能には一切支障はございませんので安心してご使用ください。	
カウンターに「糸巻き学習できません。」の文字が表示される。	セーフティ機能に基づくエラーメッセージです。「セーフティ機能」のページをご確認ください。	P99
電源投入時に英数字が2秒間表示される。	識別のための表示で、故障ではございません。表示内容は機種ごとに異なります。	
低温時に速度が上がりにくくなることもある	使用を続けると元通りになります。	

釣りを楽しく行っていただくために、釣行前には必ず電源を入れて本製品が正常に作動することをご確認くださいませお願いいたします。

(1.1m 以上糸が出た状態にならないとモーターは作動しません。)

以上の確認を行っても直らない場合は、お手数ですがお買い上げになった販売店にお預けください。その際に故障内容をできるだけ詳しくお伝えください。

製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内

リールのメカニズムの説明には書面で表しにくいことがあります。
手紙でのお問い合わせにつきましては、必ずお客様の電話番号をお書き添えくださるようお願いいたします。

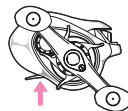
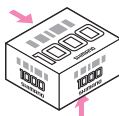
- 修理に出されるときは、お買い上げの販売店に現品をお預け願います。その際には必ず、不具合が生じたそのままの状態の販売店へお持ちいただき、修理箇所、不具合内容を具体的に（例／ストッパーが働かない）お知らせください。また、お近くにシマノ商品取扱店がない場合は、ダイレクト修理サービス (https://www.shimanofishingservice.jp/repair/direct_guide.php) をご利用ください。修理品は部品代のほか工賃を頂きますのでご了承ください。商品の故障などによって生じる他のタックルの破損、紛失、釣行費等は保証できません。

- ご自分で修理をされる場合の部品や替えスプールのお取り寄せは分解図をご覧ください。製品名・商品コード・部品番号・部品名・パートNo. をご指定のうえ、お買い上げの販売店にご注文ください。内部の部品に関しましては、複雑ですのでリール本体ごと修理に出されることをお勧めします。（例／製品名：ステラC2000S 商品コード：043832 部品番号：131 部品名：スプール組 パートNo.：10TH0）また、ご自身で分解される場合の、分解、組立方法は弊社ではご案内致しかねます。

- 弊社ではリール、釣竿の補修用性能部品の保有期間を、製造中止後6年間としています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。性能部品以外は製造中止後6年以内でも供給できない可能性がございます。

●商品コード / 製品コードの位置

パッケージ底面もしくは側面に製品コード及び商品コードを表示しています。又、製品には商品コードを表示しています。



株式会社 **シマノ** 釣具事業部 本社：〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地

●探見丸システム、商品の性能・スペック、カタログ、イベントやアフターサービスなどに関するお問い合わせ

0120-861130 (ハローイイサオ) [通話料無料] をご利用ください。

受付時間：AM9:00～12:00・PM1:00～5:00 (土、日、祝日、弊社休業日を除く)

■シマノホームページ アドレスは **www.shimano.com** です。

新製品情報・釣り情報など、フィッシングライフに役立つ、シマノならではのオリジナル情報を発信しています。

また、カタログのお申し込みも受け付けています。



此标记表示环保使用期限，其遵循以下标准：

SJ/T 11364-2014 电子电气产品有害物质限制使用标识要求

SJ/Z 11388-2009 电子信息产品环保使用期限通则

部件名称 (Parts name)	有害物质 (Hazardous substances)					
	铅 Pb	汞 Hg	镉 Cd	六价铬 Cr VI	多溴联苯 PBB	多溴二苯醚 PBDE
印刷电路板 (PCBA)	×	○	×	○	○	○
电线 (cable)	×	○	○	○	○	○
外壳 (case)	×	○	○	○	○	○
金属部件 (metal parts)	×	○	○	○	○	○

本表格依据 SJ/T 11364-2014 的规定编制。

○：表示该有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在 GB/T 26572 规定的限量要求以下。

×：表明该有害物质至少在部件的某一均质材料中的含量超出 GB/T 26572 规定的限量要求。

然而，具有 × 的所有部件都符合 EU RoHS 指令 2011/65/EU 的要求。

All parts are compliant with European RoHS (2011/65/EU) requirements.

Toutes les pièces sont conformes aux exigences de la Directive européenne RoHS (2011/65/UE)

SHIMANO